

**松戸市子ども・子育て支援に関する
アンケート調査報告書
【概要版】**

**平成 31 年 3 月
松戸市**

I. 調査概要

調査目的

「第2期松戸市子ども総合計画」策定にあたり、市民における特定教育・保育施設等及び地域子ども・子育て支援事業の利用に関する意向や子育て支援に関する意見等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に実施した調査です。

調査期間

平成30年9月1日～平成30年10月9日

調査概要

調査対象者、調査方法、配付数、回収結果については、下記のとおりです。

No	調査名	調査対象者	調査方法	配付数	有効回収票数※ 有効回収率
1	就学前児童保護者	平成24年4月2日以降に生まれた就学前児童の保護者	平成30年9月1日現在の住民基本台帳から対象児童を無作為抽出。抽出者に調査票を郵送し、回収。	2,000	1,257 62.9%
2	小学生保護者	平成30年9月1日時点で小学1年生から小学6年生までの児童の保護者		1,000	656 65.6%
3	中学生保護者	市内中学校(対象校3校)の中学2年生の保護者	平成30年9月1日現在の対象者に対し、学校(生徒)を通じて、調査票を配付し、回収。	600	317 52.8%
4	小学5年生本人	市内小学校(対象校4校)の小学5年生	平成30年9月1日現在の対象児童・生徒に対し、学校を通じて、調査票を配付し、回収。	500	465 93.0%
5	中学2年生本人	市内中学校(対象校3校)の中学2年生		600	311 51.8%
6	高校2年生本人	市内高校(対象校1校)の高校2年生		400	345 86.3%
7	一般市民	平成30年9月1日現在で満18歳以上の松戸市民	平成30年9月1日現在の住民基本台帳から対象者を無作為抽出。抽出者に調査票を郵送し、回収。	1,000	542 54.2%
8	転出世帯 (就学前児童保護者)	平成25年4月1日以降に本市から柏市もしくは流山市に転出した就学前児童の保護者		300	155 51.7%

※有効回収票数とは、回収したうち、集計対象にできた回収票数のこと。

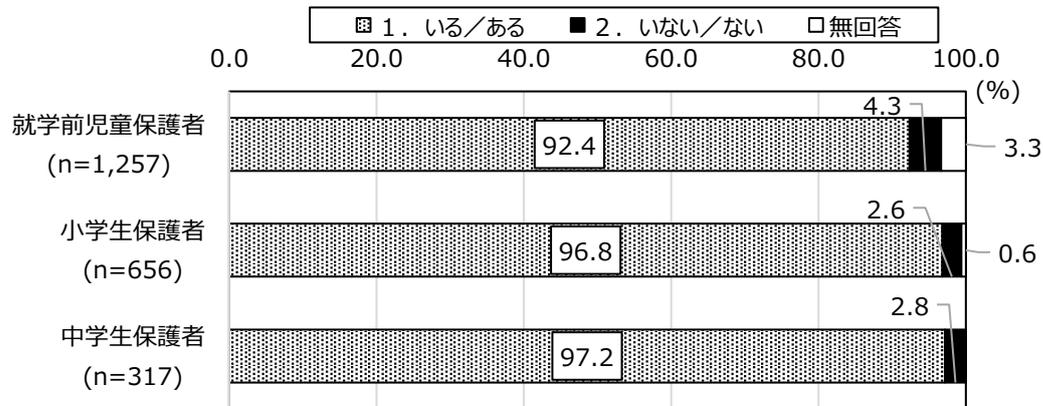
調査内容

No	調査名		設問内容
1	保護者調査	就学前児童保護者	<ul style="list-style-type: none"> ● お子さんご家族等の状況について ● 子育ての環境について ● 保護者の就労状況について ● 育児休業の取得状況について ● お子さんの幼稚園や保育所（園）などの利用状況について ● 地域の子育て支援の利用状況について ● お子さんの一時預かり等の利用について ● 子ども・子育て支援施策について
2		小学生保護者	<ul style="list-style-type: none"> ● お子さんご家族等の状況について ● 子育ての環境について ● お子さんの放課後児童クラブ等の利用状況について ● お子さんの一時預かり（宿泊を伴うもの）等の利用について ● 子どもの安全安心について ● 子どもの健康や食生活について ● 地域社会との関わりについて ● 子ども・子育て支援施策について
3		中学生保護者	<ul style="list-style-type: none"> ● 回答者ご自身のこと等について ● 子育ての環境について ● 子どもの安全安心について ● 子どもの健康や食生活について ● 子ども・子育て支援施策について
4	児童・生徒調査	小学5年生本人	<ul style="list-style-type: none"> ● 回答者の属性 ● 家族や友人との関わりについて ● インターネットの使用状況について
5		中学2年生本人	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己評価について ● 学校について ● 放課後の過ごし方について
6		高校2年生本人	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来について ● 松戸市について
7	一般市民		<ul style="list-style-type: none"> ● 回答者ご自身のことについて ● 少子化について ● 結婚や子どもに関する意識について ● 子どもへの虐待について ● 地域の中での子育てについて ● 子育て全般について
8	転出世帯（就学前児童保護者）		<ul style="list-style-type: none"> ● お子さんご家族等の状況について ● 現在の環境と松戸市との比較について

II. 就学前児童保護者・小学生保護者・中学生保護者 調査結果

① 子育てについて相談できる相手や場所

相談できる相手や場所の有無は、子どもの年齢にかかわらず大きな違いはありません。

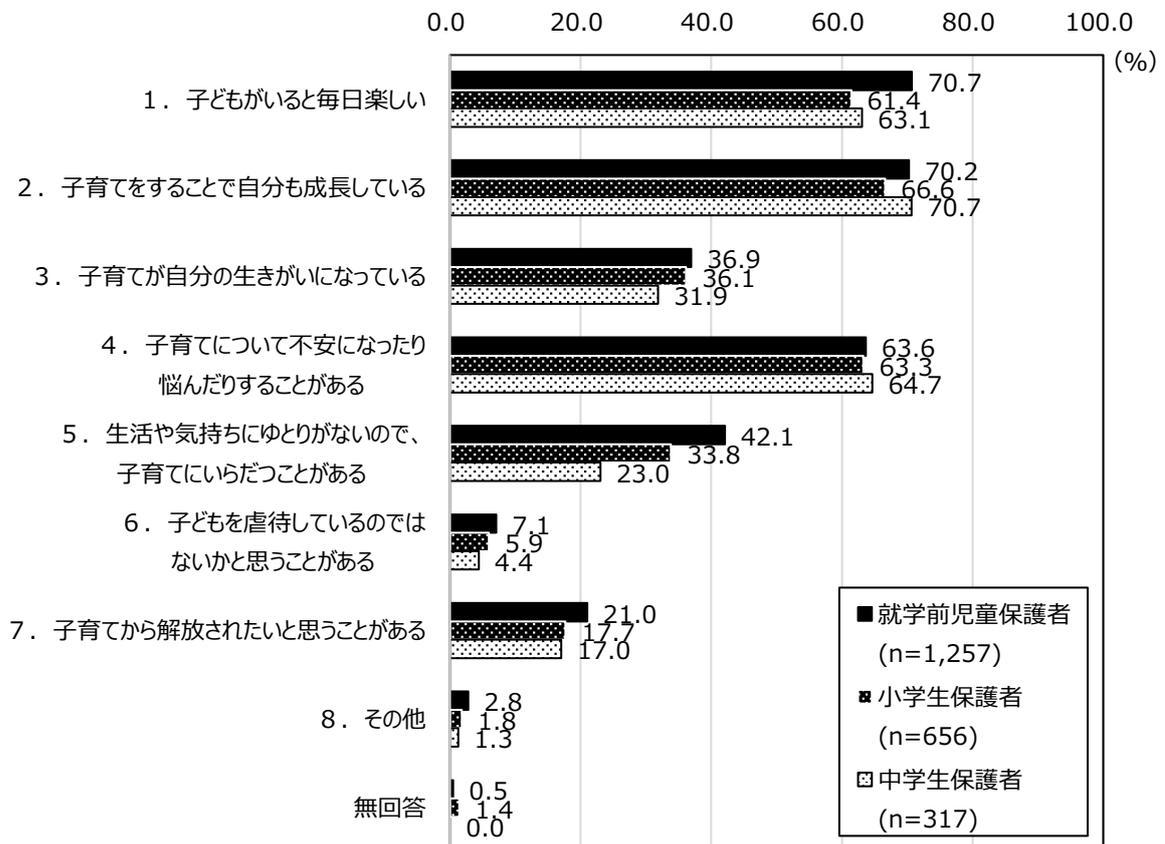


※未就学保護者と小学生保護者・中学生保護者は選択肢が異なりましたが、比較のため、選択肢をあわせています。

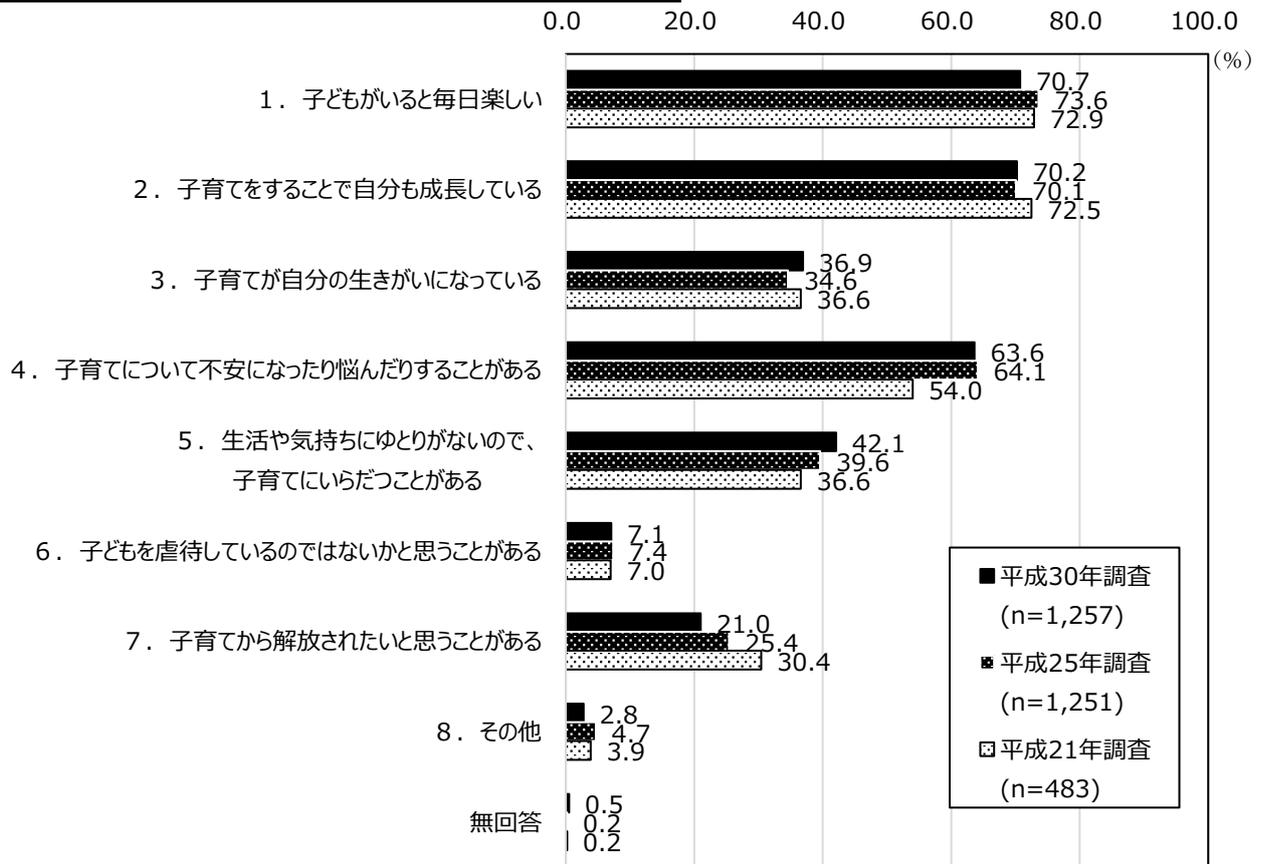
② 子育てをしている気持ち

「子どもがいると毎日が楽しい（選択肢 1）」の回答割合は就学前児童保護者が最も高くなっていますが、全体的に子どもの年齢による明確な傾向の違いはみられません。

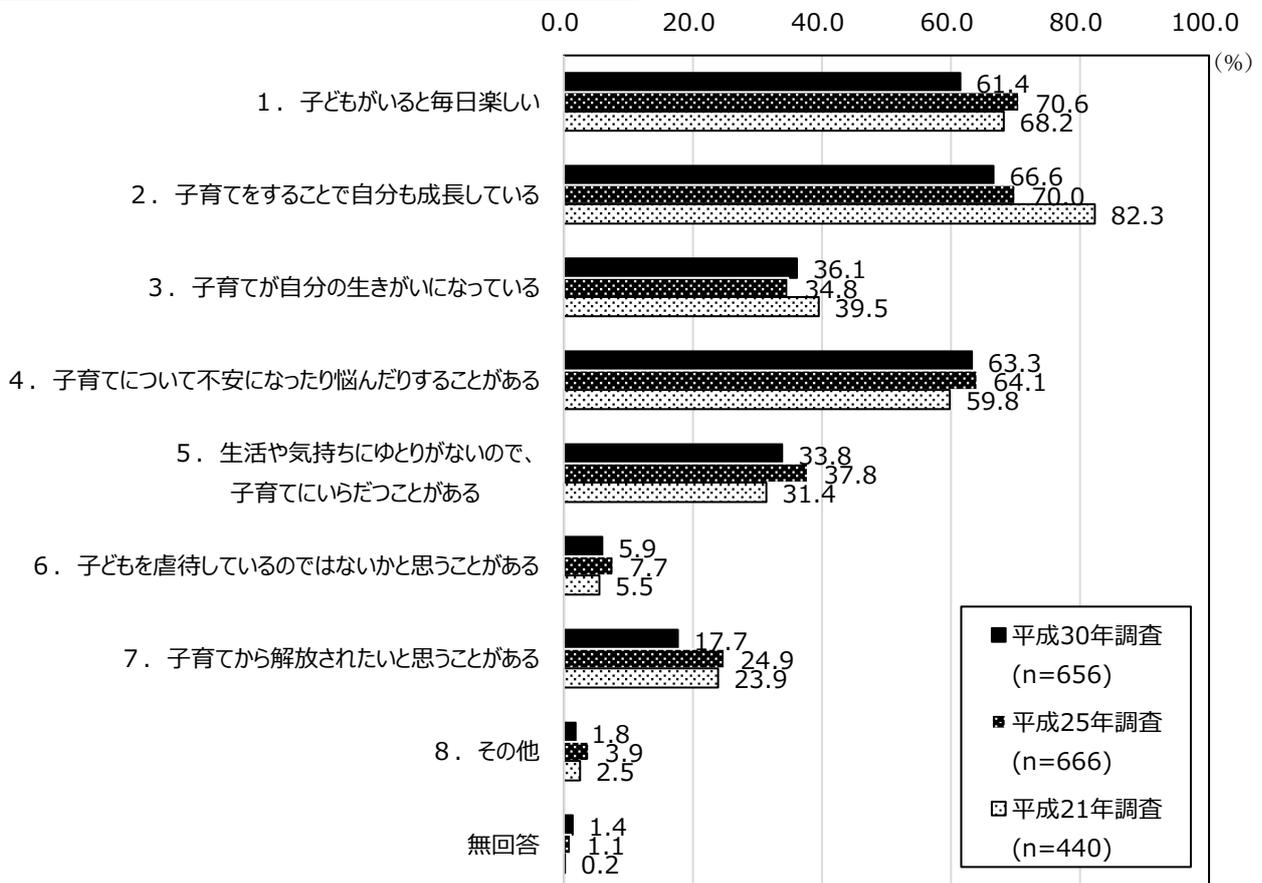
一方で、「生活や気持ちにゆとりがないので、子育てにいらだつことがある（選択肢 5）」や「子育てから解放されたいと思うことがある（選択肢 7）」は、子どもの年齢が低いほど、回答割合が高い傾向にあります。



■ 子育てをしている気持ち（就学前児童保護者の経年比較）

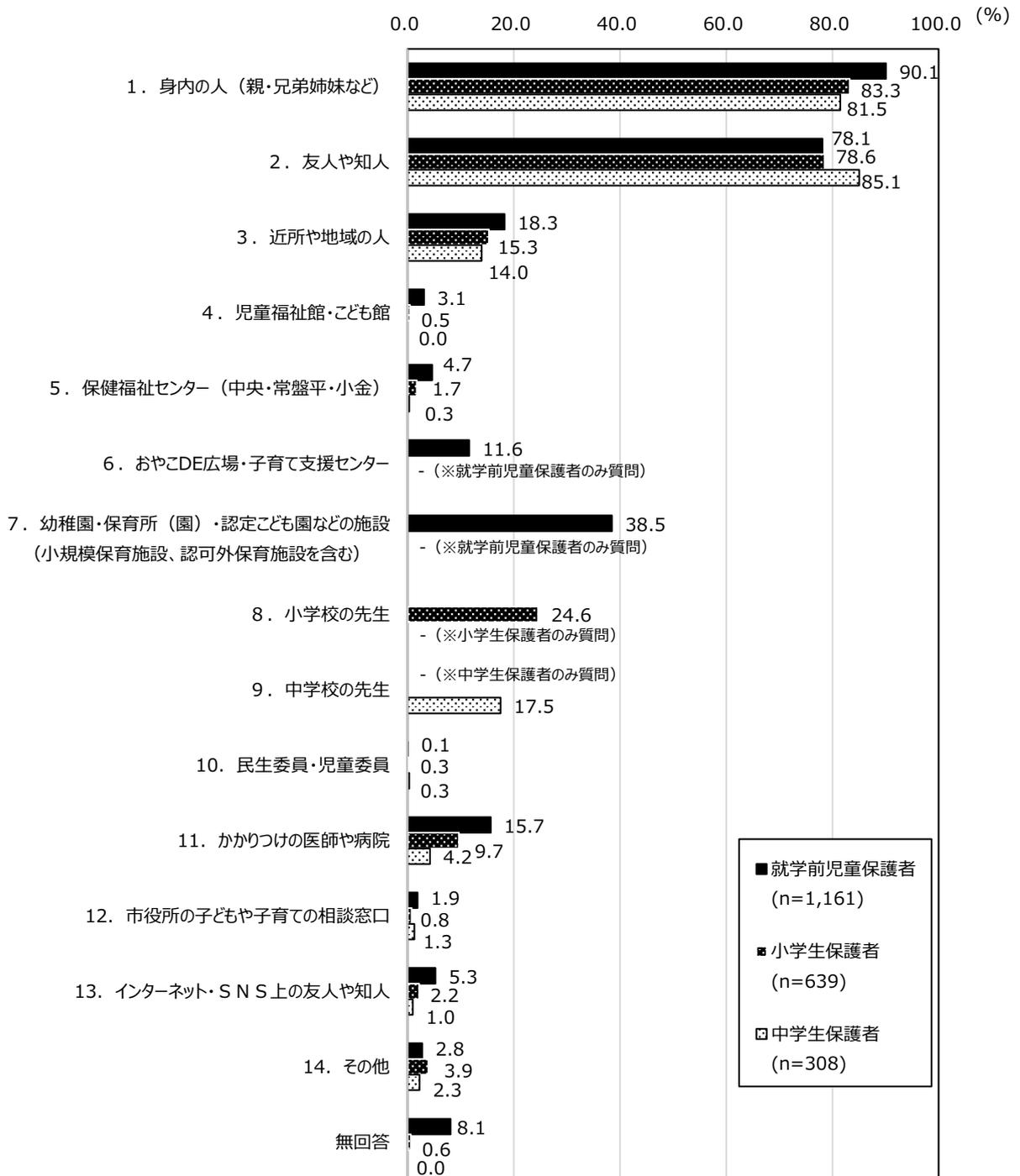


■ 子育てをしている気持ち（小学生保護者の経年比較）



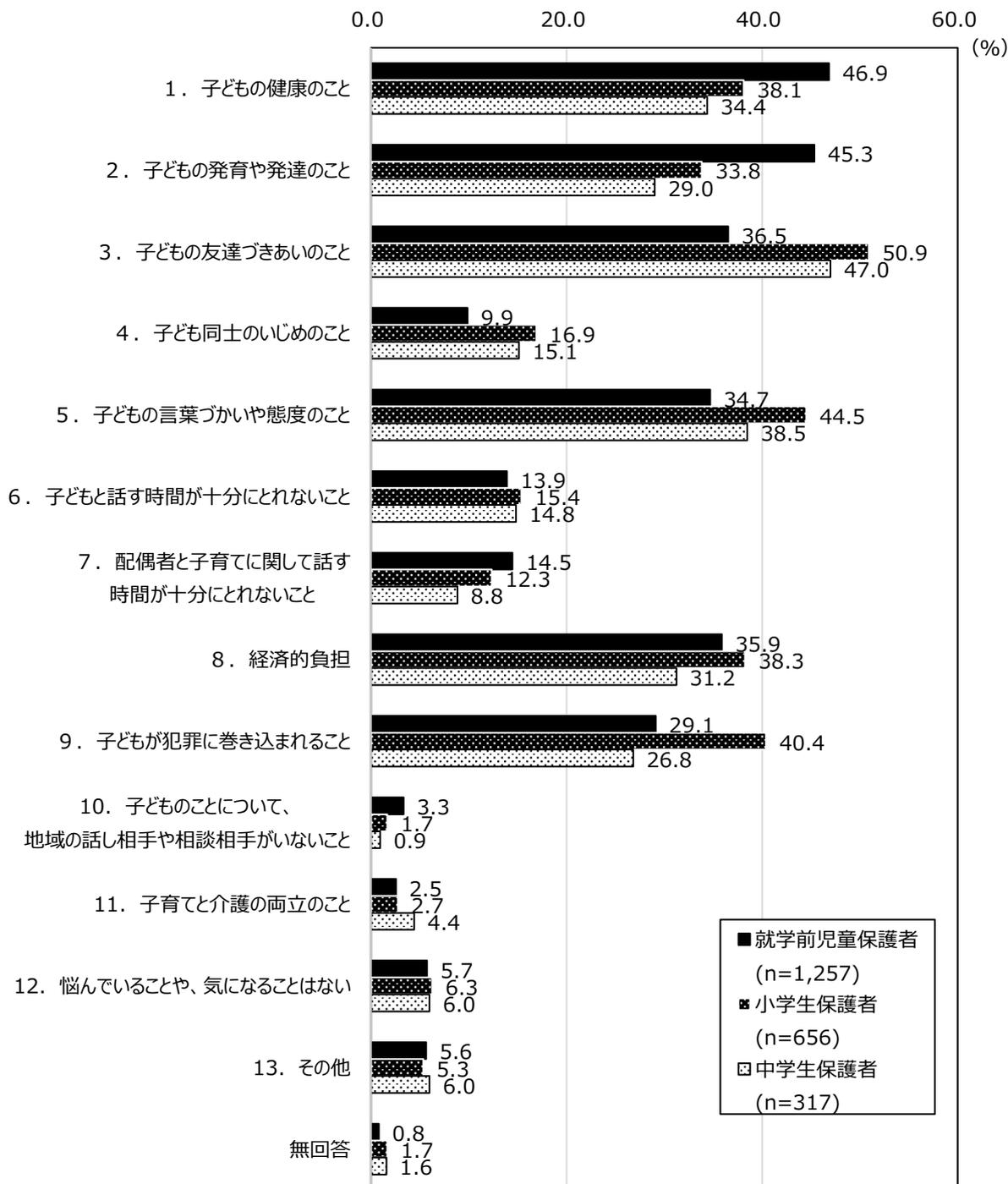
③ 就学前児童保護者の子育てに関する情報入手方法

子育てに関する情報の入手方法については、「身内の人（選択肢 1）」よりも「友人や知人（選択肢 2）」の回答割合が高くなっています。また、「インターネットやSNS（選択肢 12）」や「保育所(園)・認定こども園・幼稚園・学校（選択肢 4）」の回答割合も高くなっています。



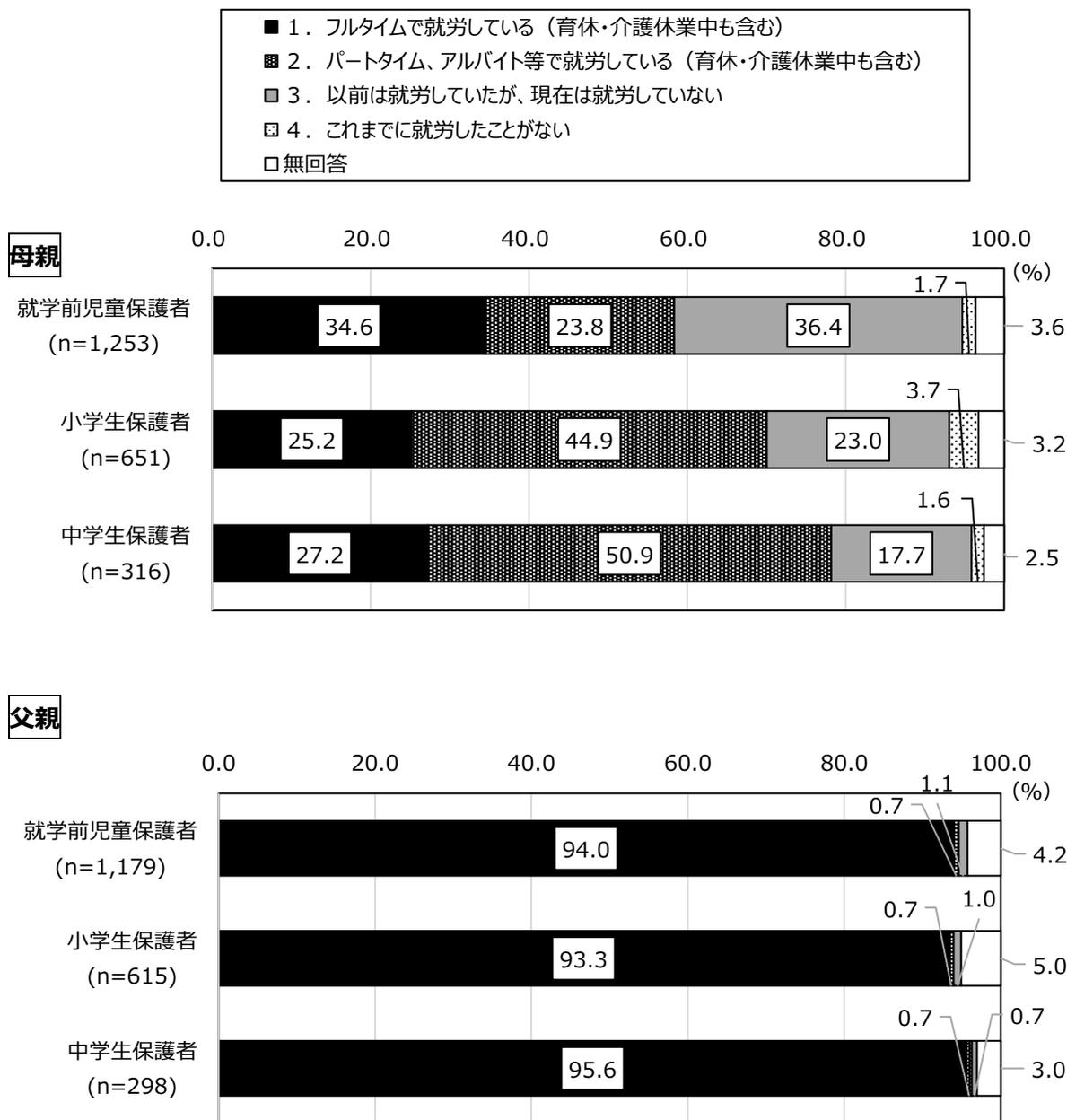
④ 子育てに関する日常的な悩み

子育てのことで日常悩んでいることは、就学前児童保護者においては「子どもの健康のこと（選択肢 1）」や「子どもの発育や発達のこと（選択肢 2）」の回答割合が高く、小学生保護者においては「子どもの友達つきあいのこと（選択肢 3）」、「子どもの言葉づかいや態度のこと（選択肢 5）」、「子どもが犯罪に巻き込まれること（選択肢 9）」の回答割合が高くなっております。中学生保護者においては、小学生保護者と同じような傾向となっておりますが、各選択肢において全体的に回答割合が低くなっています。



⑤ 保護者の就労状況

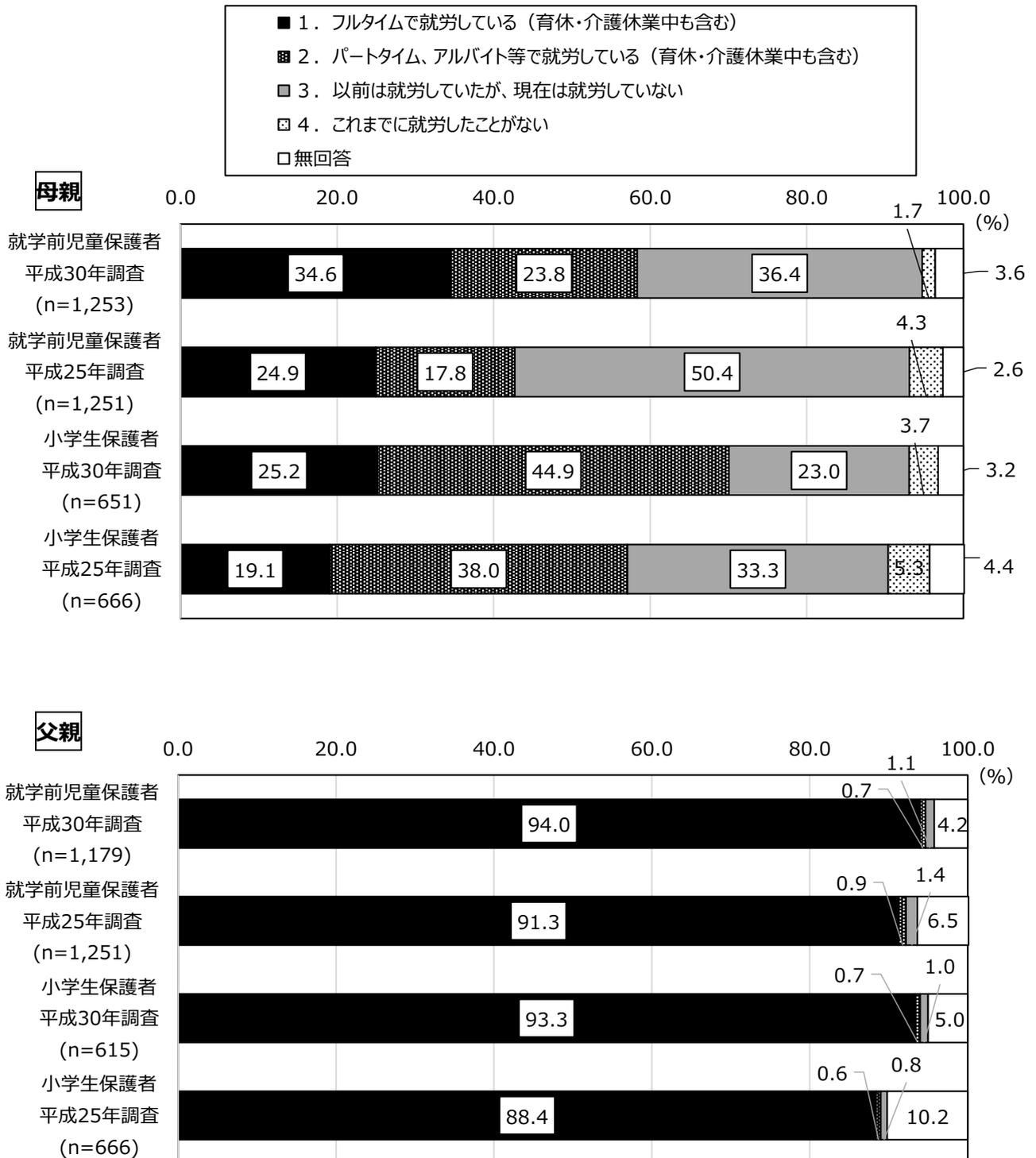
父親の就労状況は、子どもの年齢によらず大きな違いはありませんが、母親の就労状況は、子どもの年齢があがるにつれて、「就労している」と回答した割合（フルタイム、パートタイム等の合計）が高くなっています。



※母親、父親のいないひとり親家庭は、それぞれ除外しています。

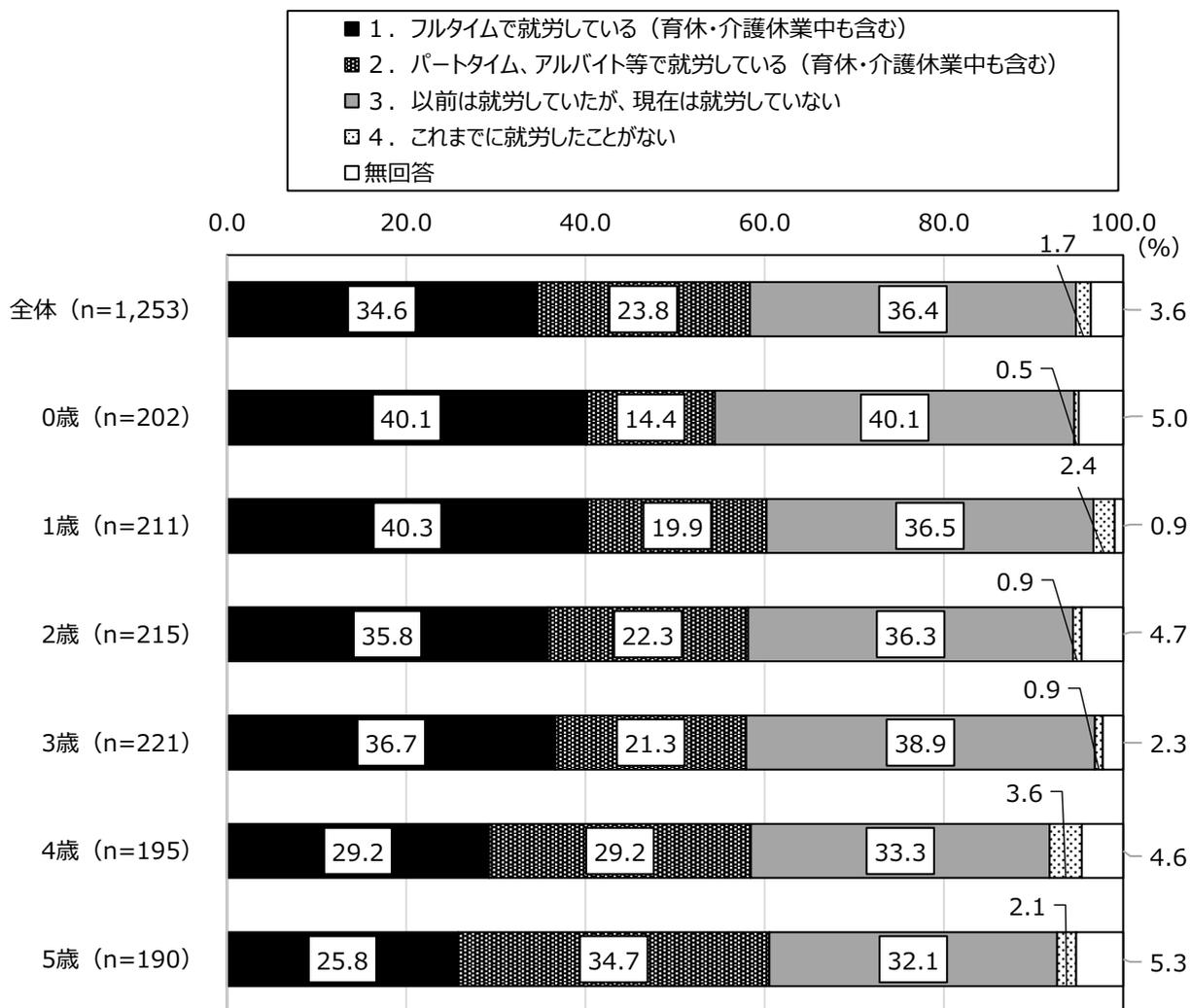
■ 保護者の就労状況（経年比較）

平成 25 年度調査と比較すると、就学前児童保護者、小学生保護者ともに母親が「就労している（フルタイム、パートタイム等の合計）」と回答した割合が高く、特に就学前児童保護者において、「フルタイムで就労している」の回答割合が高くなっています。



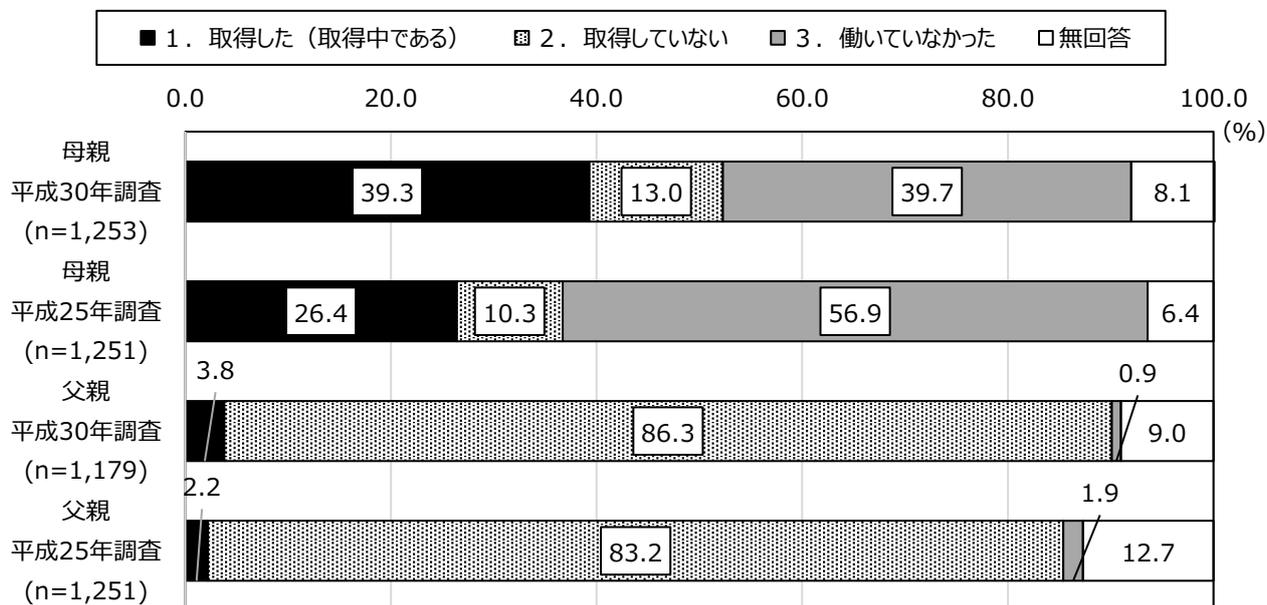
就学前の子どもの年齢別×母親の就労状況

子どもの年齢別における母親の就労状況については、就労割合（フルタイム、パートタイム等の合計）はあまり変わりませんが、0歳、1歳の保護者におけるフルタイム就労の割合が高い傾向にあります。



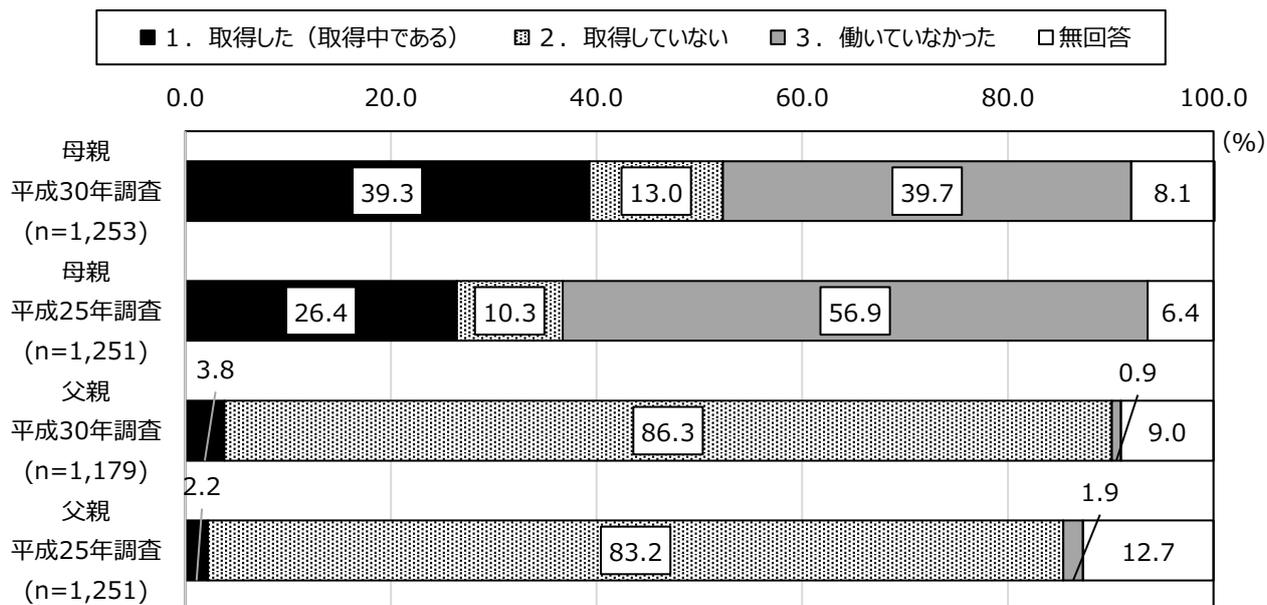
⑥ 保護者の育児休暇の取得状況

平成 25 年調査と比較すると、母親が「育児休業を取得した（取得中である）」と回答した割合が高くなっており、その一方、「出産時点で働いていなかった」と回答した割合が低くなっています。父親が「育児休業を取得した（取得中である）」と回答した割合は、あまり増加していません。



■ 育児休業の取得状況（経年比較）

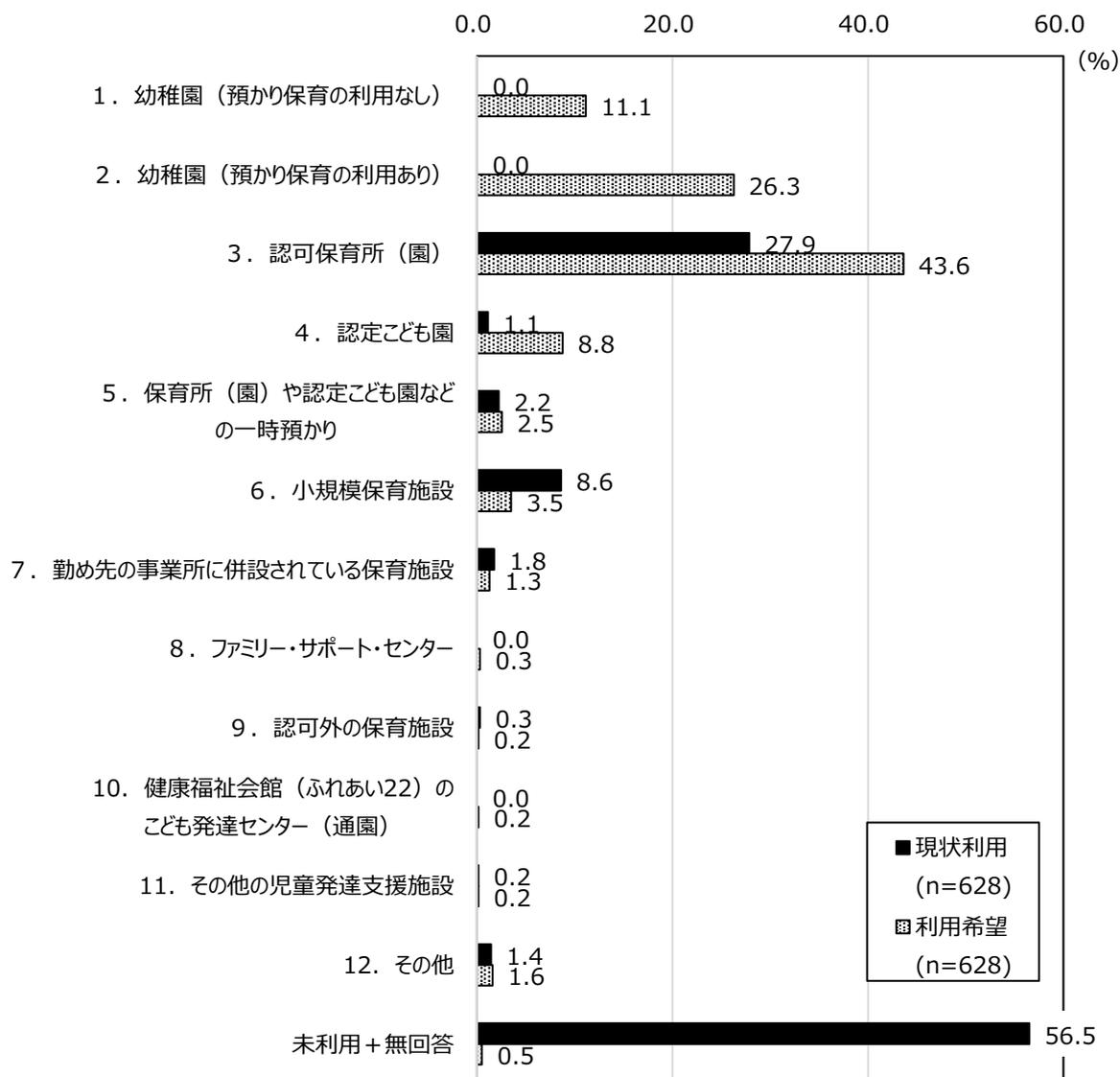
平成 25 年調査と比較すると、母親が「育児休業を取得した（取得中である）」と回答した割合が高くなっており、その一方、「出産時点で働いていなかった」と回答した割合が低くなっています。父親が「育児休業を取得した（取得中である）」と回答した割合は、あまり増加していません。



⑦ 幼稚園や保育所（園）などの利用状況や利用希望について

幼稚園や保育所（園）などの利用希望（0～2歳）

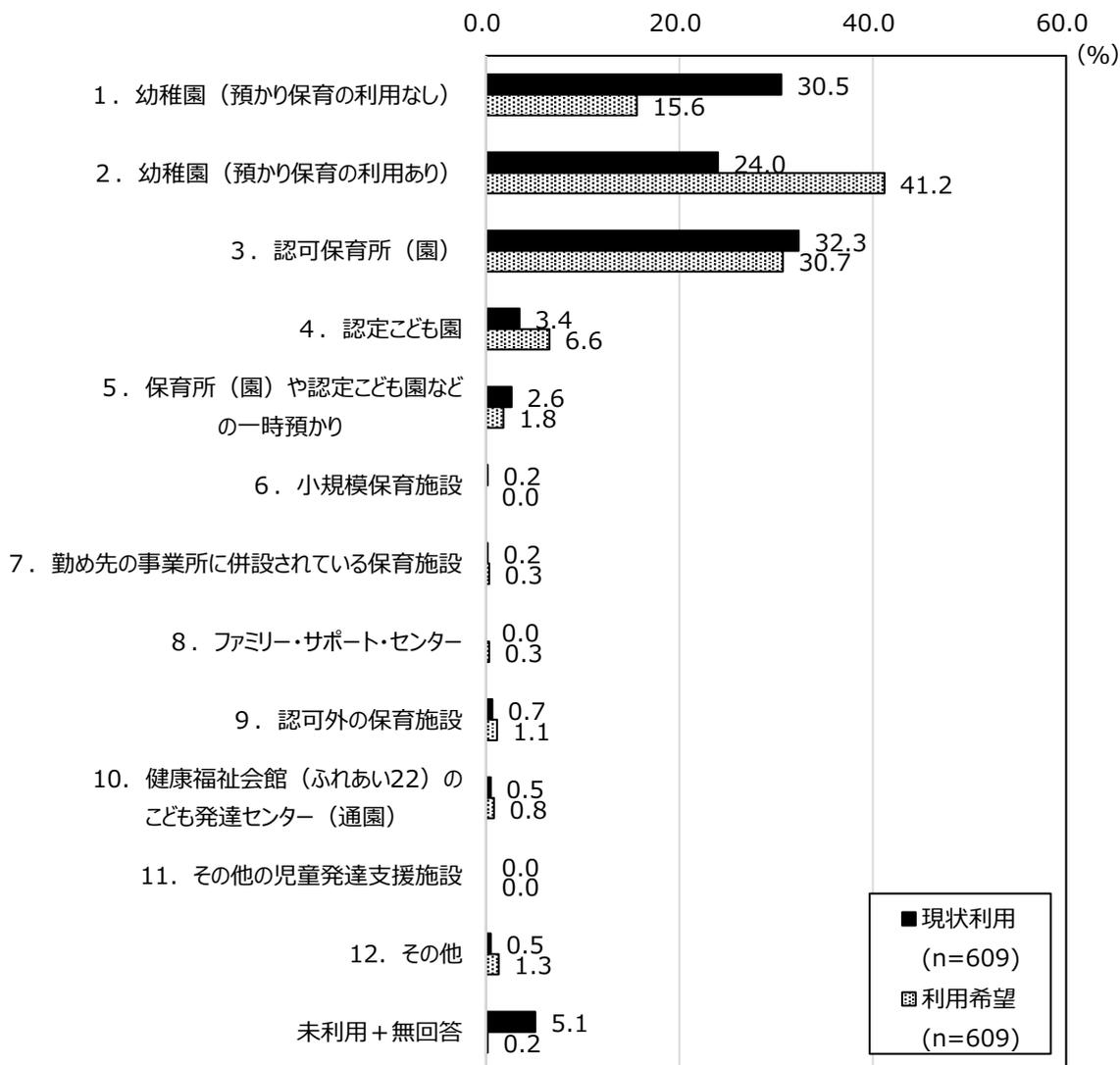
定期的に利用したい教育・保育施設（事業）について、0～2歳児の現状と希望※を比較すると、希望が現状より高かった施設（事業）は、「認可保育所（園）（選択肢3）」、「幼稚園（預かり保育の利用あり）（選択肢2）」、「幼稚園（預かり保育の利用なし）（選択肢1）」でした。



※利用希望は、幼児教育・保育が無償化されることを踏まえた潜在ニーズを測っており、入所や無償化の認定基準に該当するかどうかは考慮せず、回答しています。

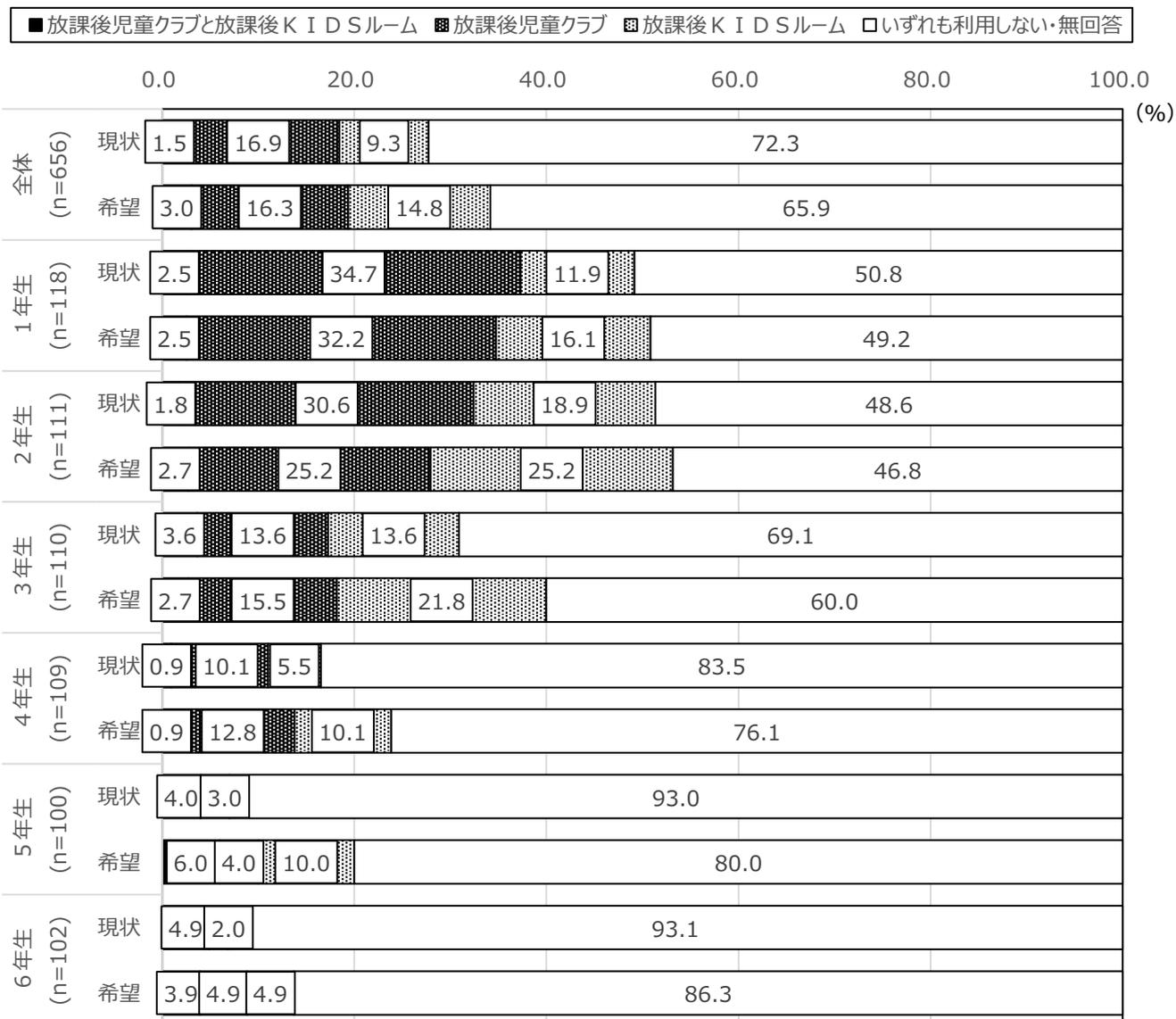
現在の利用施設と希望施設の比較（3～5歳）

今後定期的に利用したい教育・保育施設（事業）利用について、3～5歳児の現状と希望を比較すると、希望が現状より高かった施設（事業）は、主に「幼稚園（預かり保育の利用あり）（選択肢 2）」、「認定こども園（選択肢 4）」でした。



⑧ 放課後児童クラブと放課後 KIDS ルームの利用希望

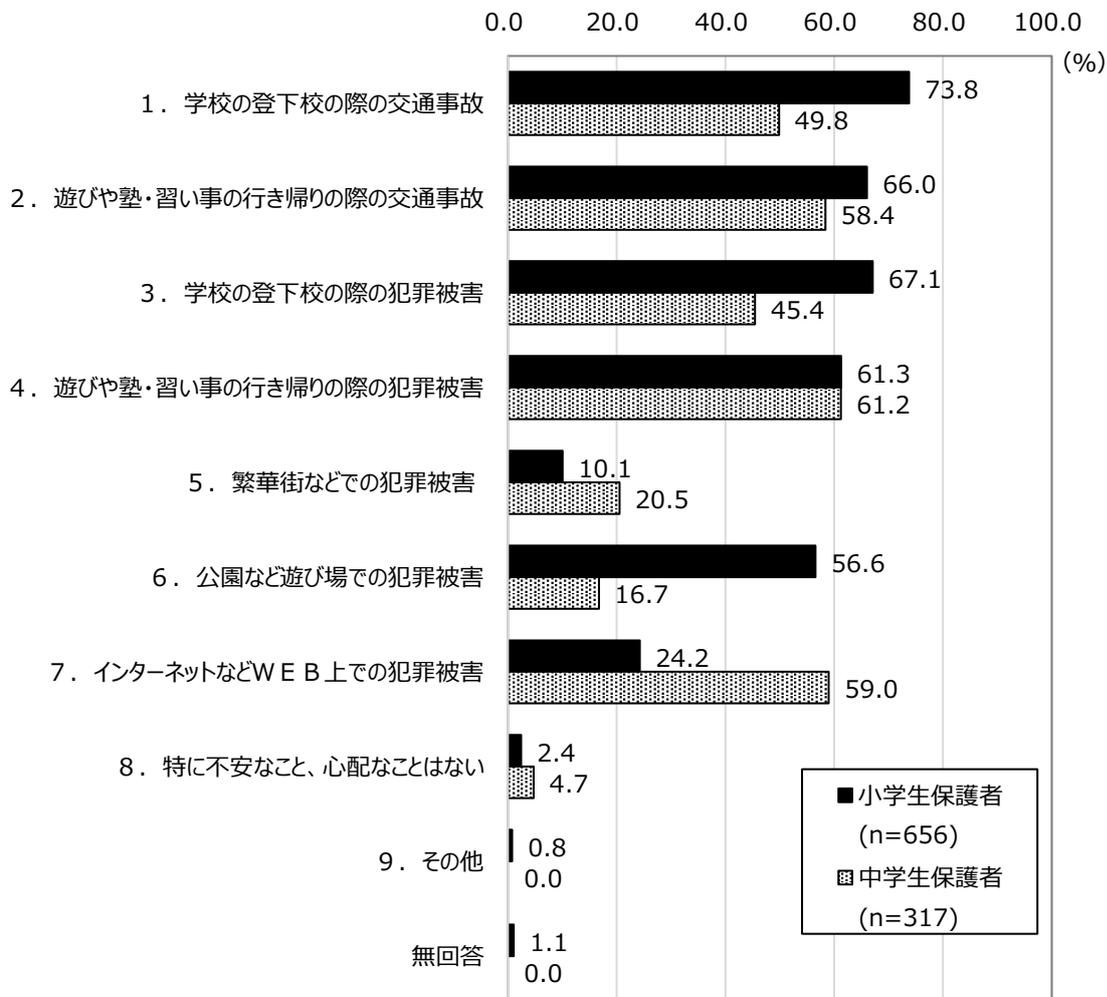
放課後児童健全育成事業は、現状利用も利用希望も、学年があがるにつれ減少しています。現状利用と利用希望の差が最も大きいのが、3年生となっています。また放課後 KIDS ルームは、全学年で現状利用よりも利用希望が高くなっています。



⑨ 子どもの安全安心について不安に思うこと

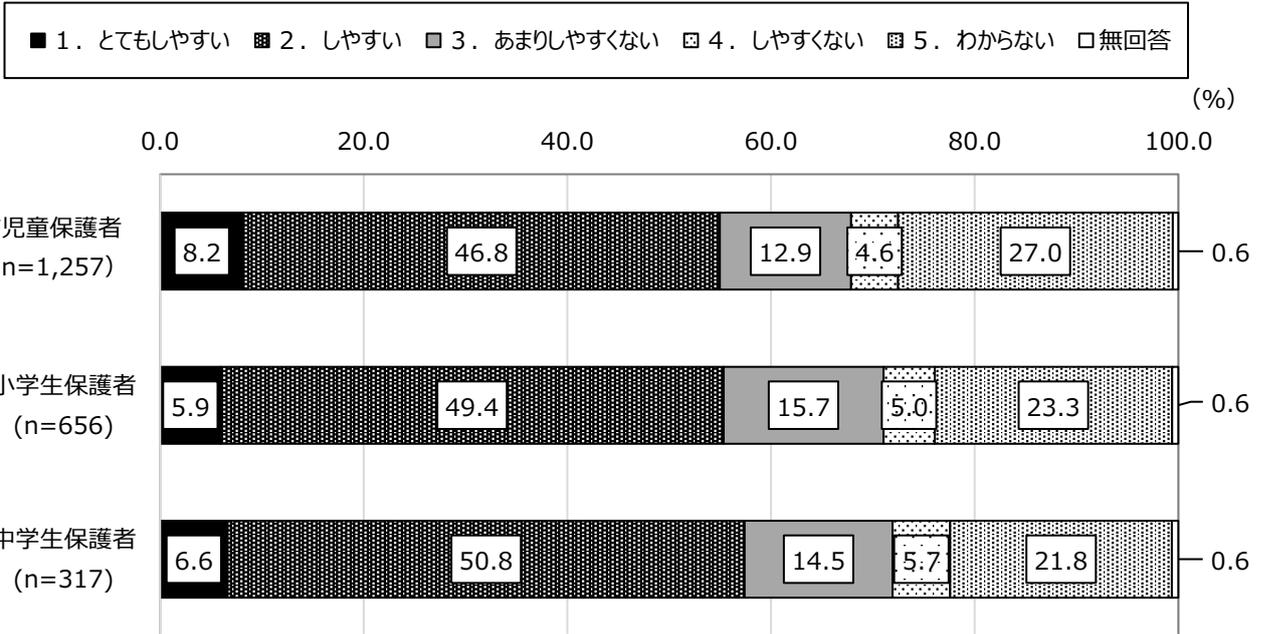
子どもの事故や犯罪に関する不安・心配なこととして、小学生保護者においては、「学校の登下校の際の交通事故（選択肢 1）」と回答した割合が最も高く、中学生保護者においては、「遊びや塾・習い事の行き帰りの際の犯罪被害（選択肢 4）」と回答した割合が最も高くなっています。

また、小学生保護者と比べ、中学生保護者では、「インターネットなどWEB上での犯罪被害（選択肢 7）」と回答した割合が特に高くなっています。



⑩ 松戸市子ども・子育て支援（子育てのしやすさ）

松戸市は子育てが「とてもしやすい」「しやすい」と回答した割合は、子どもの年齢にかかわらず約6割となっています。



III. 小学5年生・中学2年生・高校2年生 調査結果

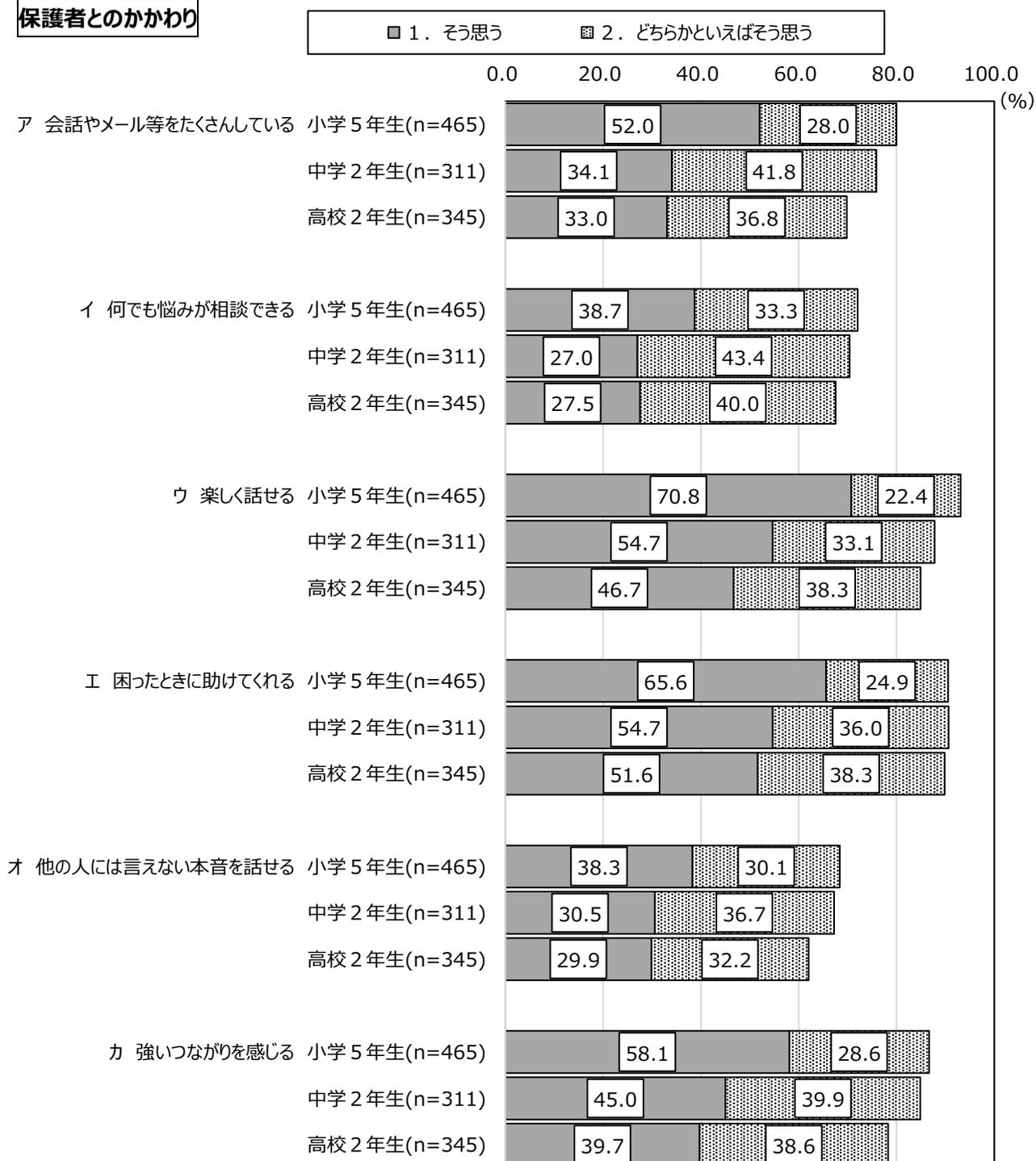
① 保護者や友人との関わり

保護者とのかかわりについては、全項目において、子どもの年齢があがるにつれて低くなっています。

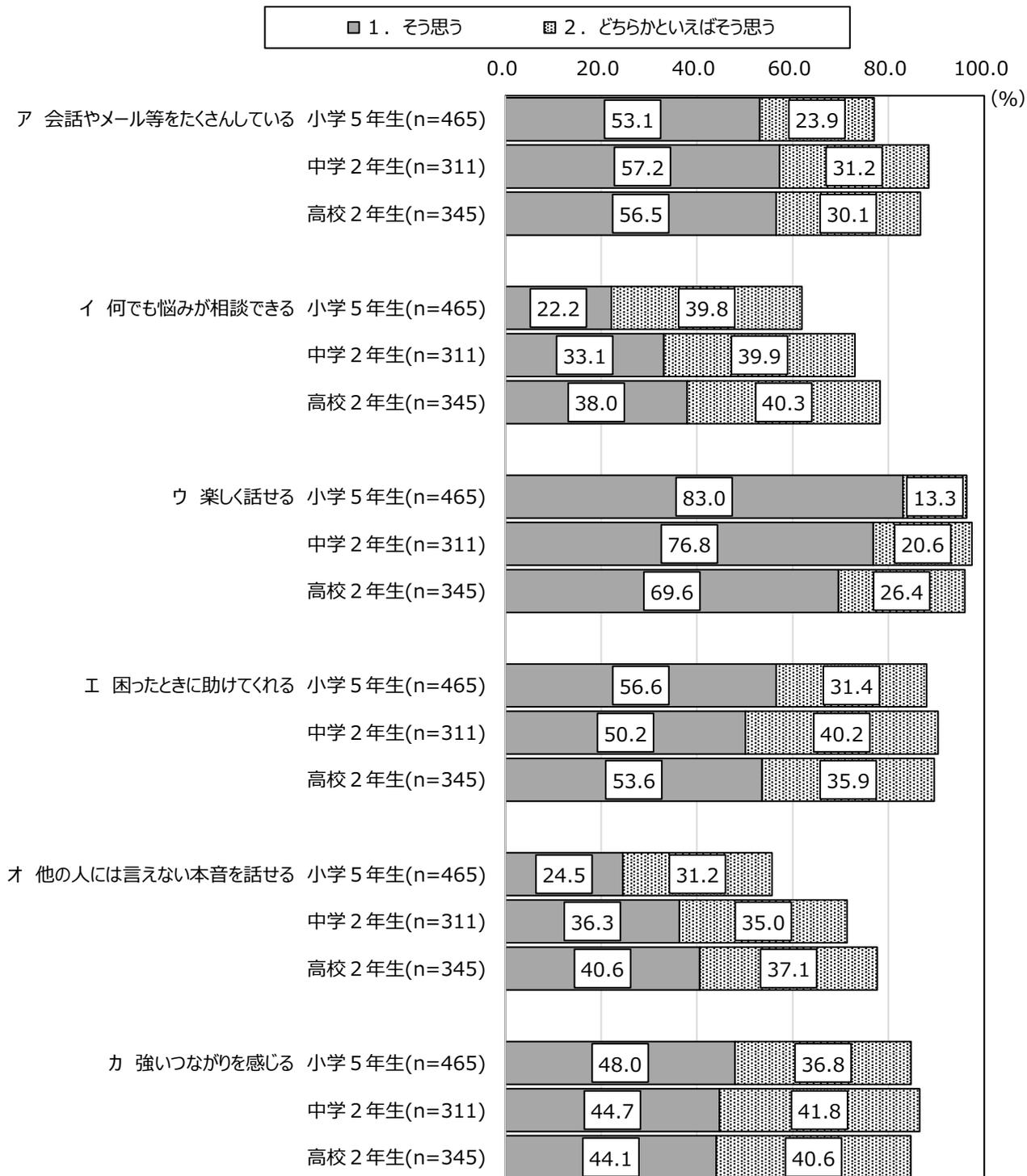
学校の友人とのかかわりについては、「なんでも悩みが相談できる（選択肢イ）」と「他の人には言えない本音を話せる（選択肢オ）」と回答した割合が、子どもの年齢があがるにつれて高くなっています。

インターネット上の人やSNSなどのグループとのかかわりについては、全項目において、子どもの年齢があがるにつれて高くなっています。

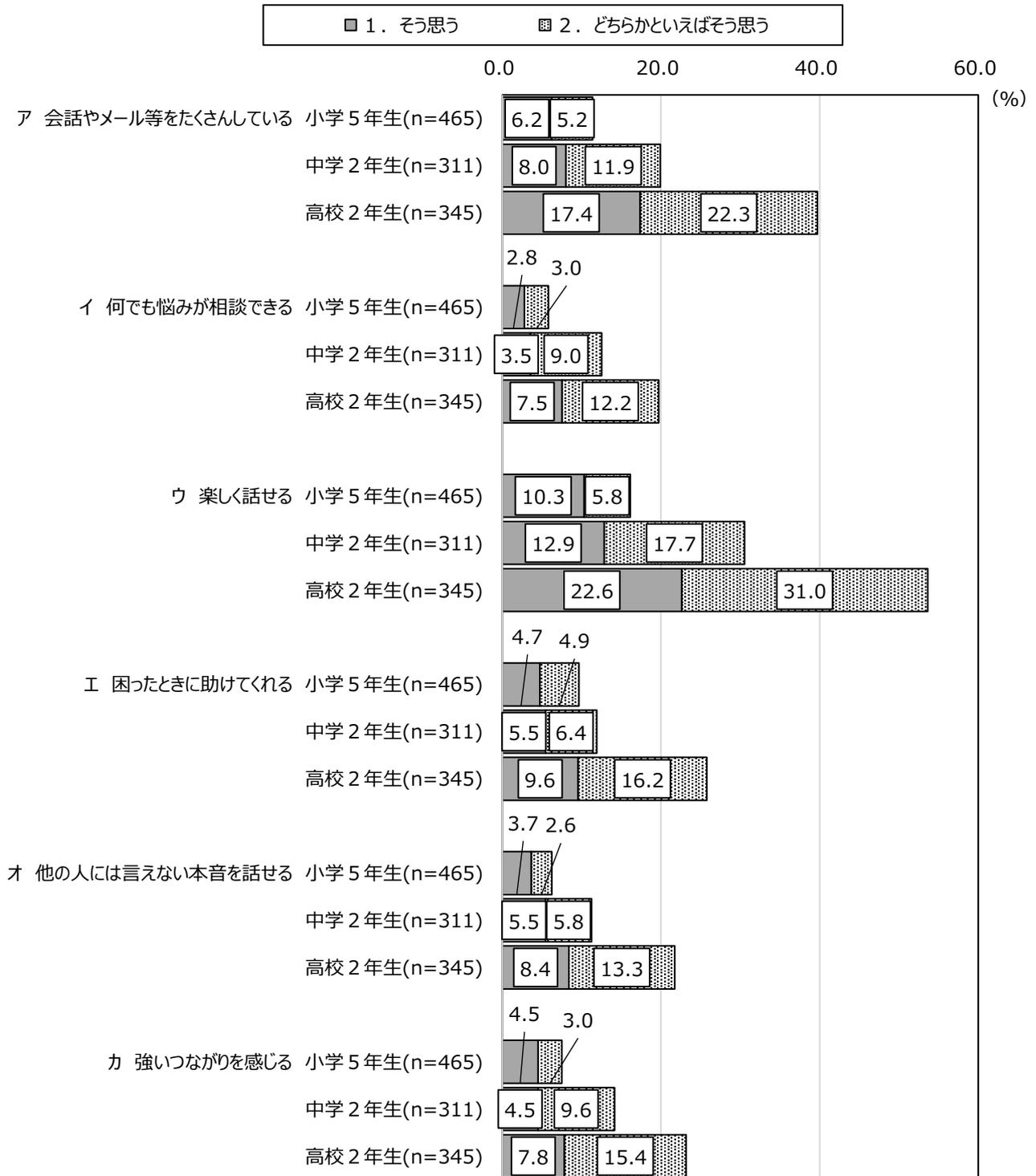
保護者とのかかわり



学校の友人との関わり

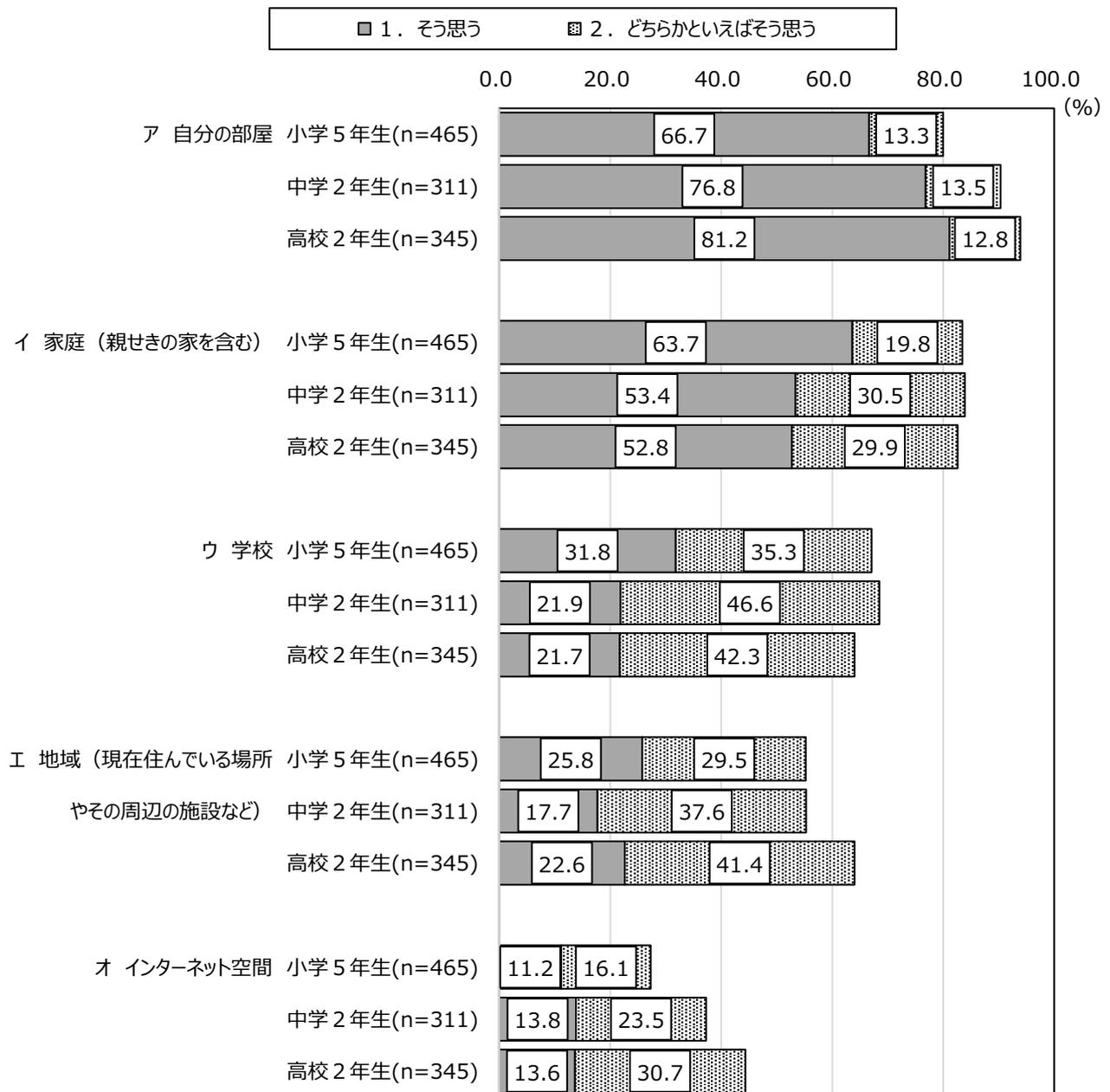


インターネット上の人やSNSなどのグループ



② 子どもが居場所と感じるところ

ほっとできる居場所として、子どもの年齢があがるにつれて「自分の部屋（選択肢ア）」、「地域（選択肢工）」、「インターネット空間（選択肢オ）」の回答割合が増加しています。

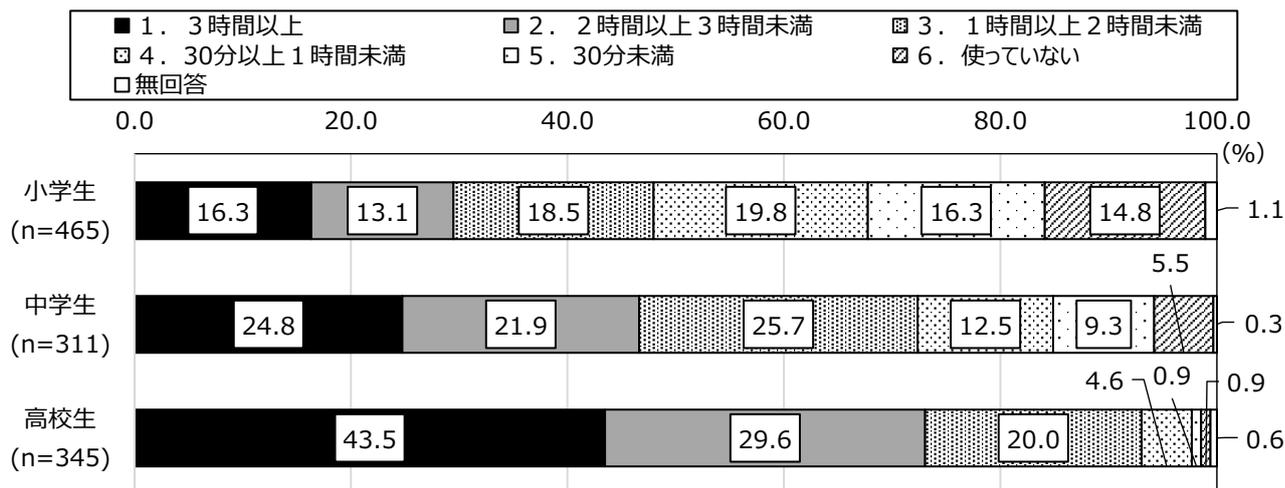


③ インターネット（スマートフォン含む）の使用状況

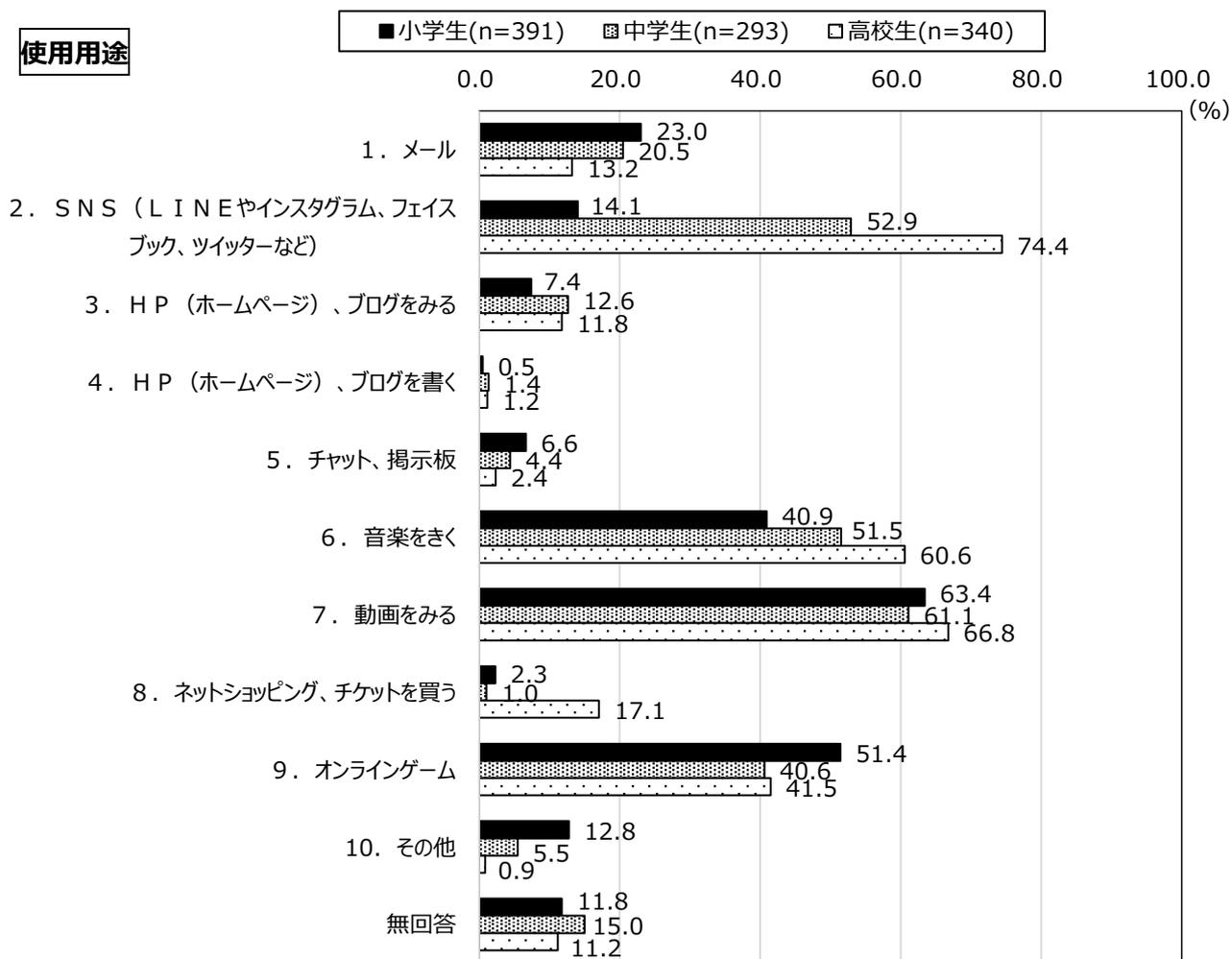
子どもの年齢があがるにつれ、1日のインターネットの利用時間が増加しています。

高校生になると、「3時間以上」と回答した割合が43.5%となり、1時間以上使用していると回答した割合が9割を超えています。インターネットの使用目的ですが、小学生、中学生においては、「動画を見る（選択肢7）」と回答した方の割合が最も高く、高校生においては、「SNS（選択肢2）」と回答した方の割合が最も高くなっています。

1日の使用状況



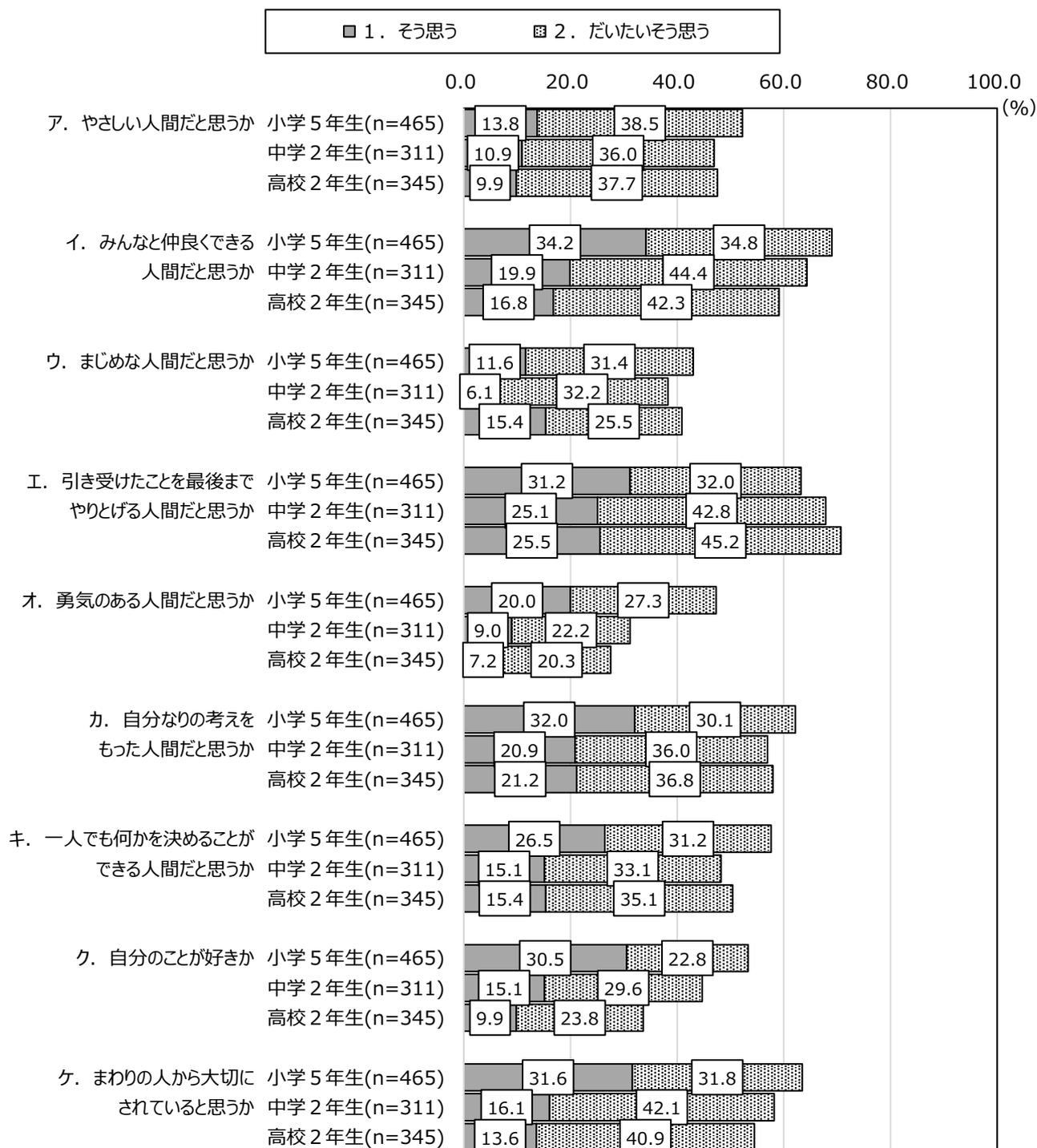
使用用途



④ 子どもの自己評価

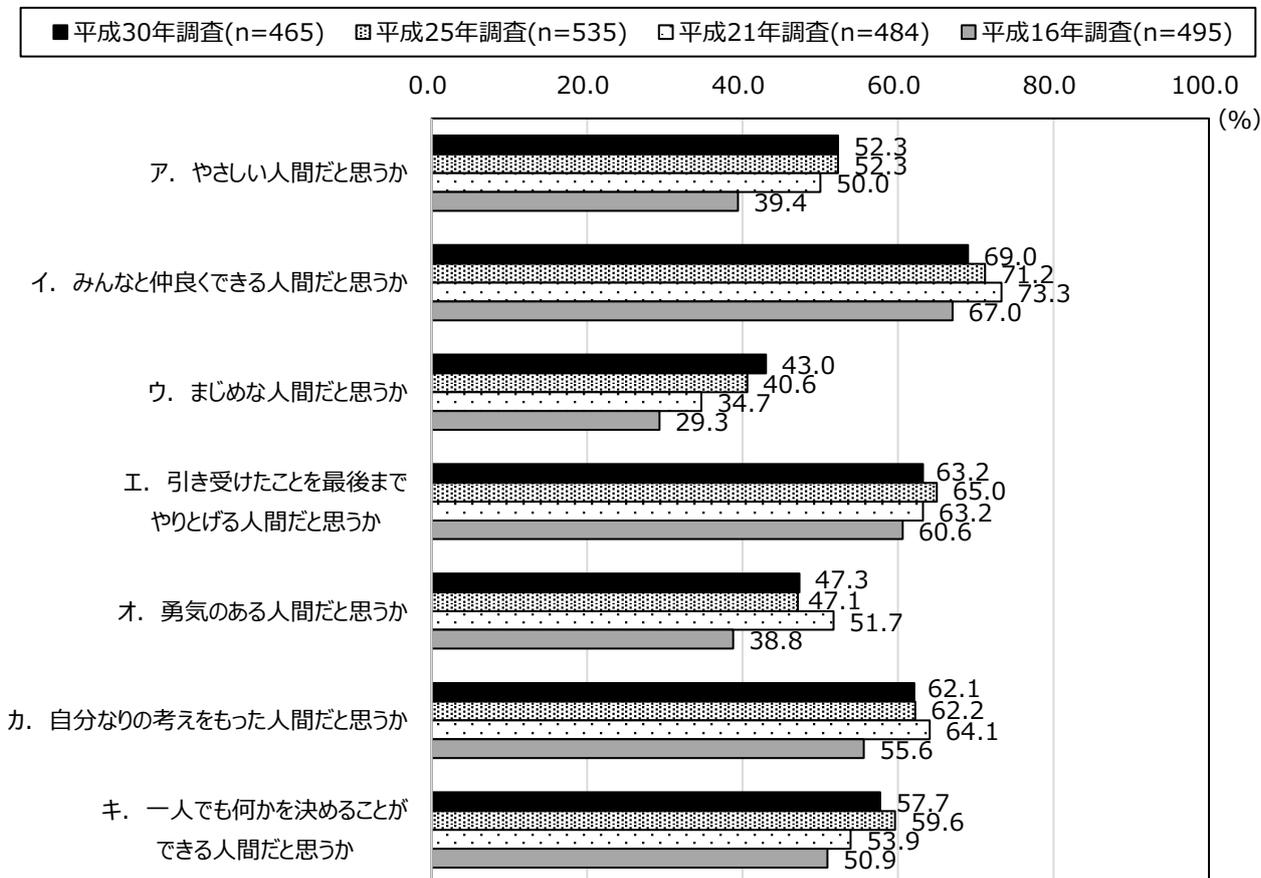
子どもの自己評価については、全項目に共通して、子どもの年齢があがるにつれ肯定的に回答する割合は低下する傾向が見られます。特に低下が顕著なのが「自分のことが好き（選択肢ク）」となっています。

「引き受けたことを最後までやりとげる人間だと思う（選択肢工）」だけは、子どもの年齢があがるに伴い、増加する傾向がみられます。



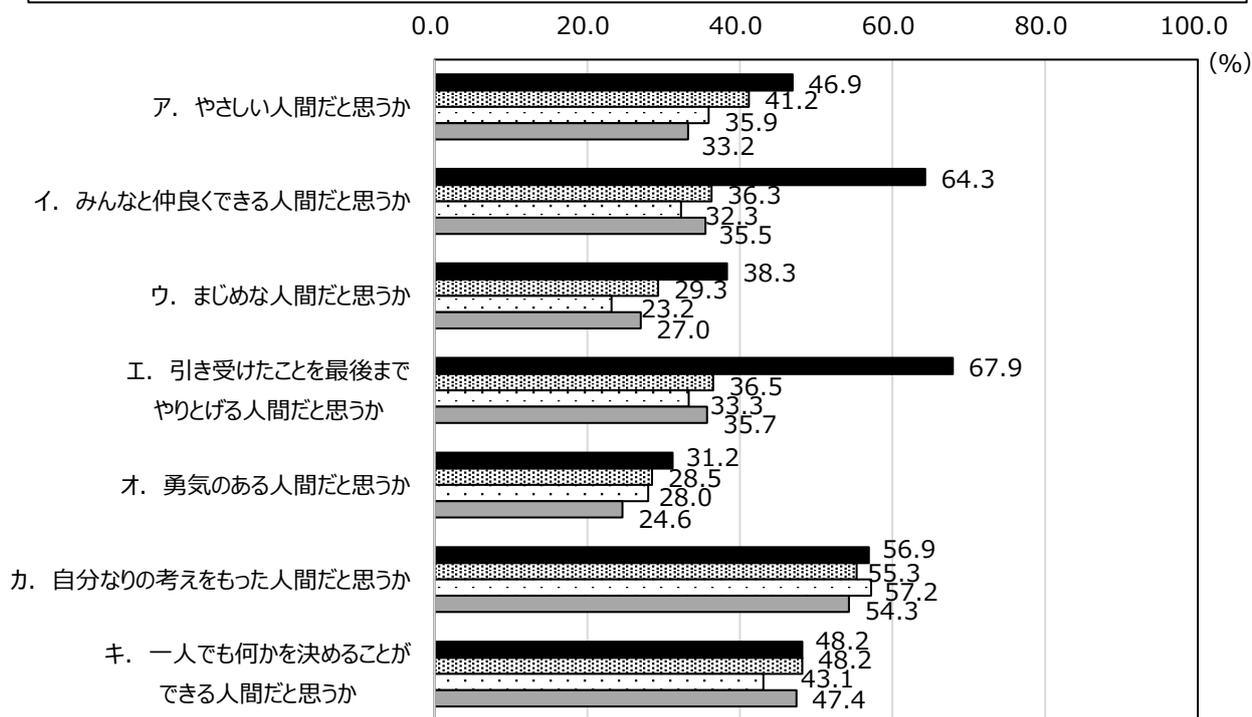
過去の調査と比較すると、小学生は「まじめな人間だと思う」と回答した割合が増加傾向となっています。
 中学生、高校生においては「みんなと仲良くできる人間だと思う」と「引き受けたことを最後までやりとげる」ことが、特に高くなっています。

■小学5年生の経年比較



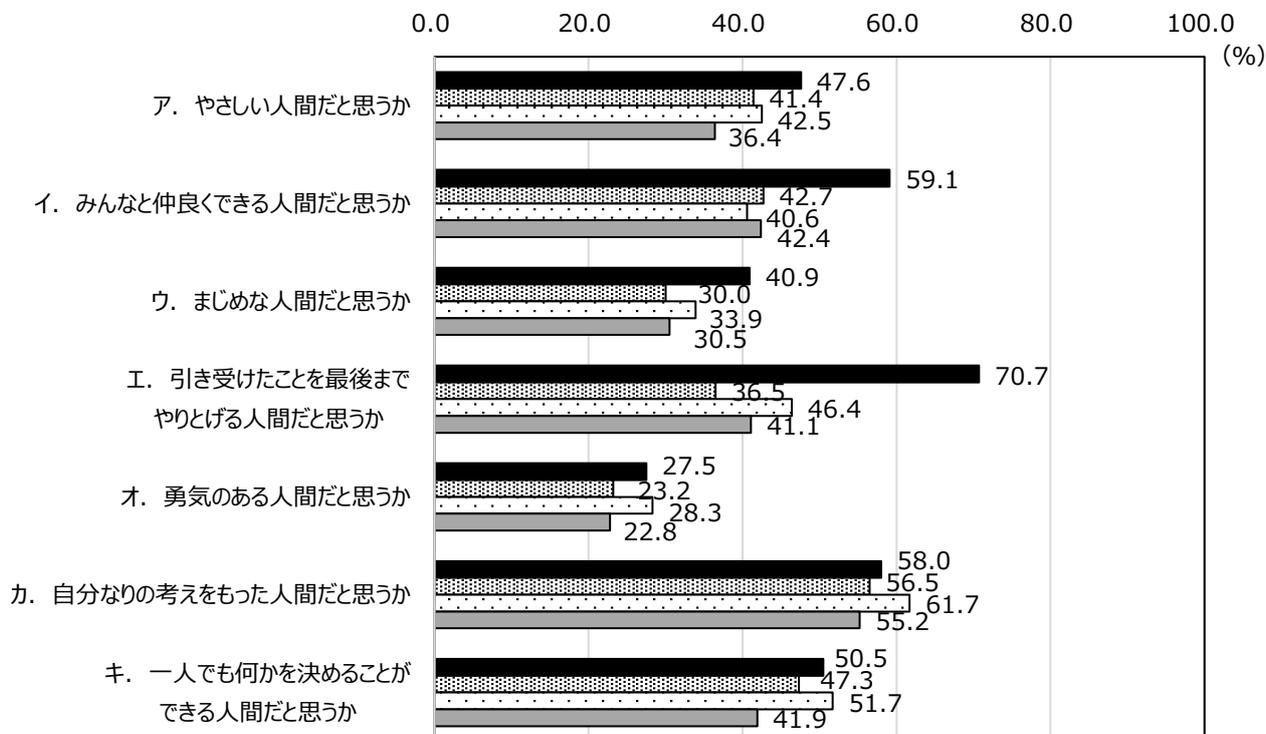
■ 中学 2 年生の経年比較

■平成30年調査(n=311) ▨平成25年調査(n=512) □平成21年調査(n=468) ■平成16年調査(n=456)



■ 高校 2 年生の経年比較

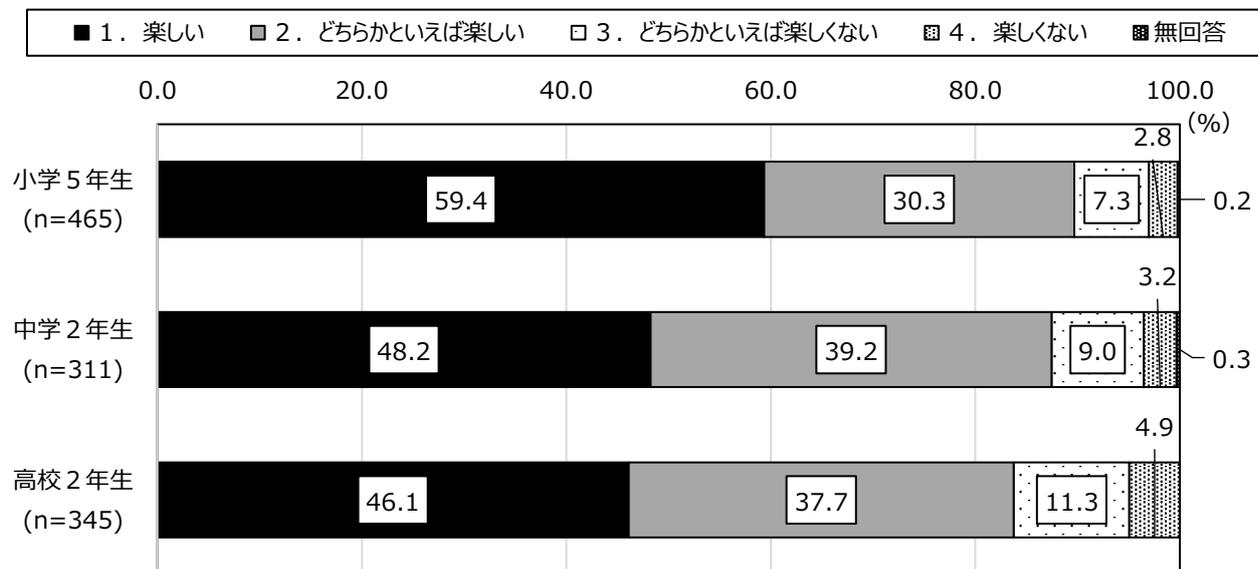
■平成30年調査(n=345) ▨平成25年調査(n=457) □平成21年調査(n=431) ■平成16年調査(n=453)



⑤ 学校との関わり

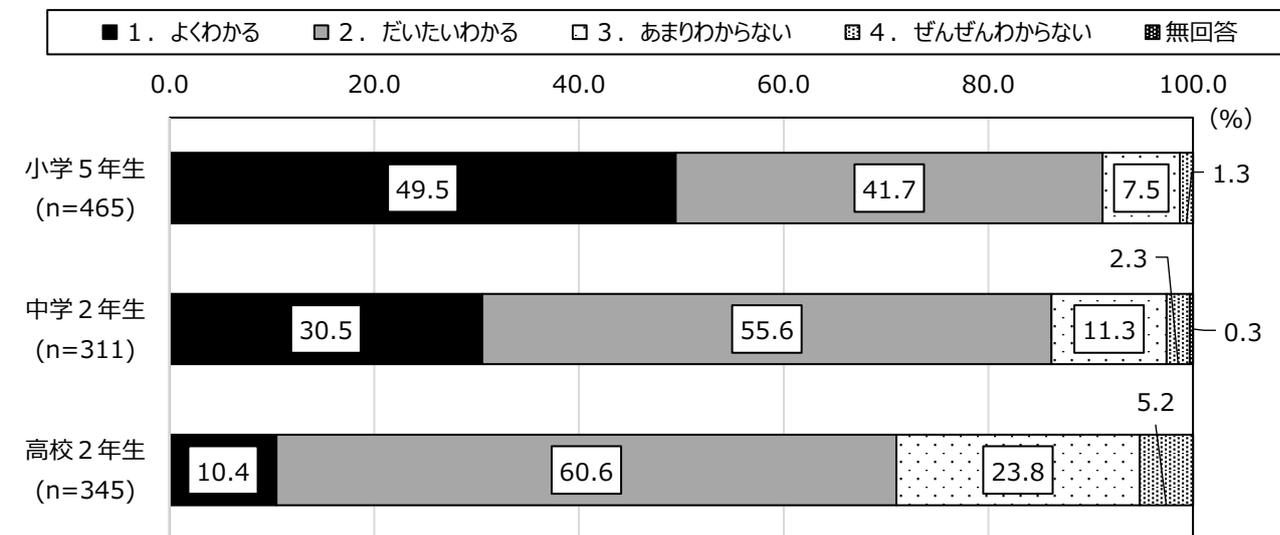
学校にいる時間が楽しいか

子どもの年齢があがるにつれて、学校にいる時間が楽しいと感じる割合は低下しています。



学校の授業がわかるか

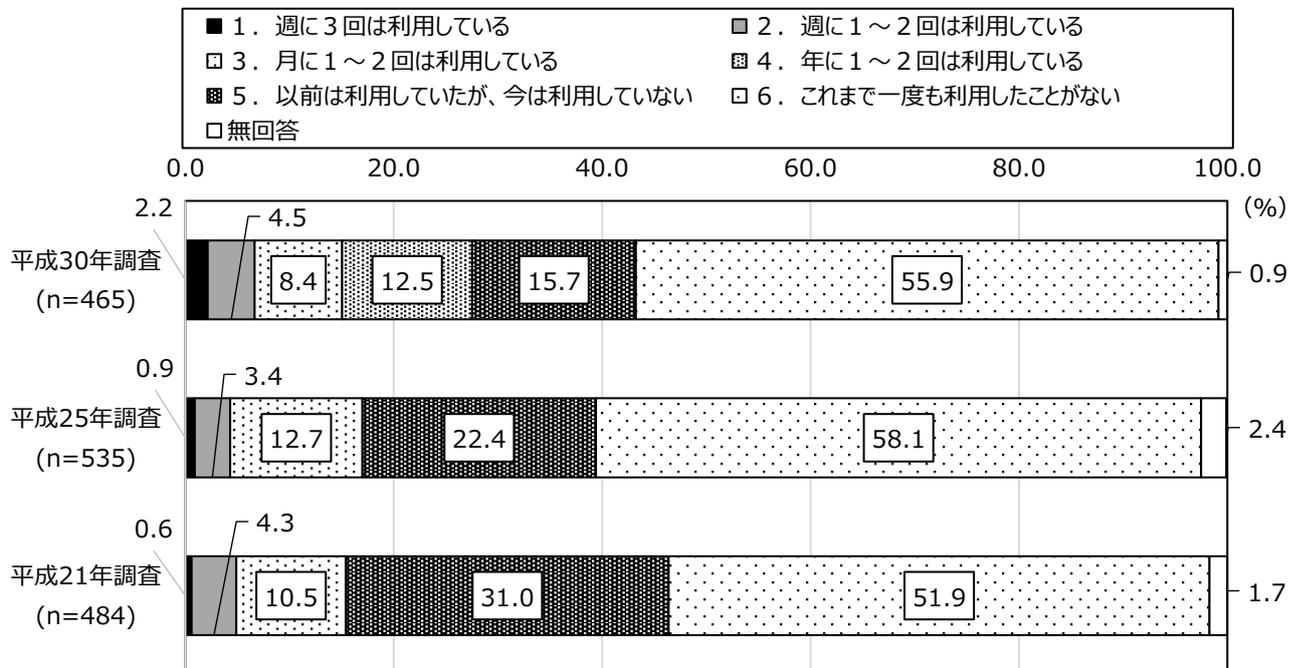
子どもの年齢があがるにつれて、学校の授業が分かると感じる割合は低下しています。



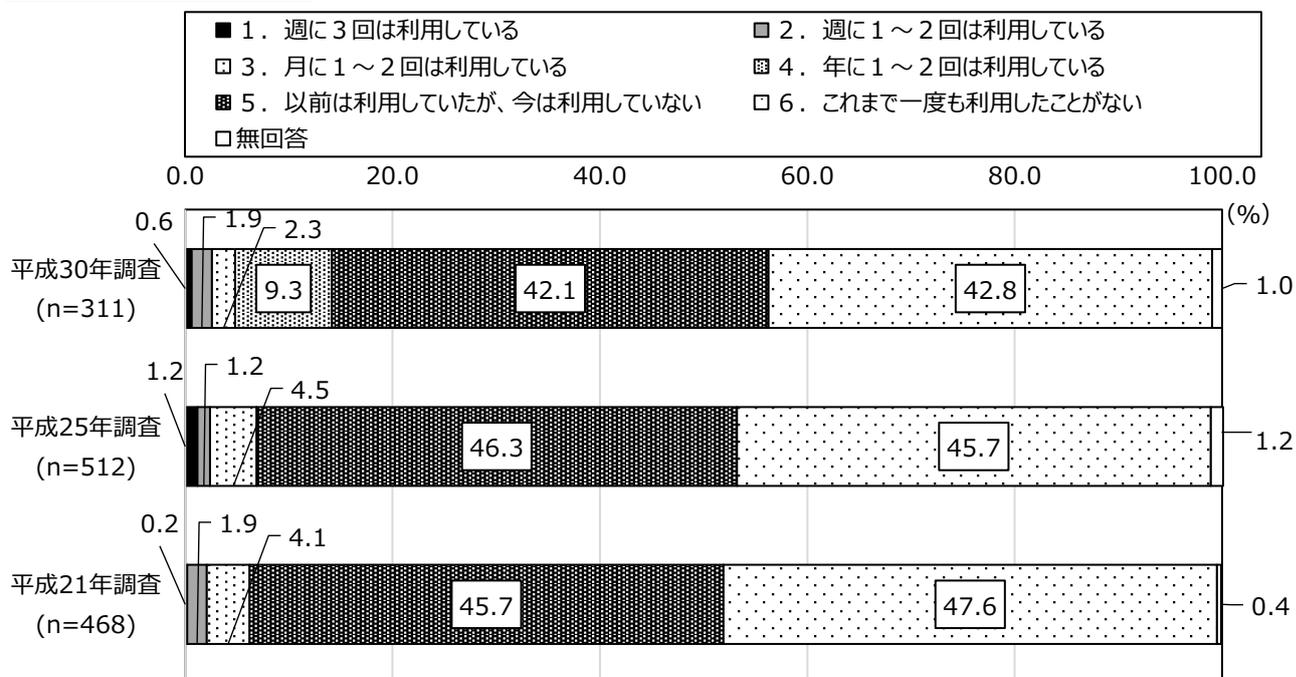
⑥ 児童館・こども館等の利用状況

小学5年生、中学2年生いずれにおいても、月に1回以上利用している割合（選択肢1～3の合計）は、平成25年以前の調査と比較して低くなっています。

■小学5年生の経年比較



■中学2年生の経年比較

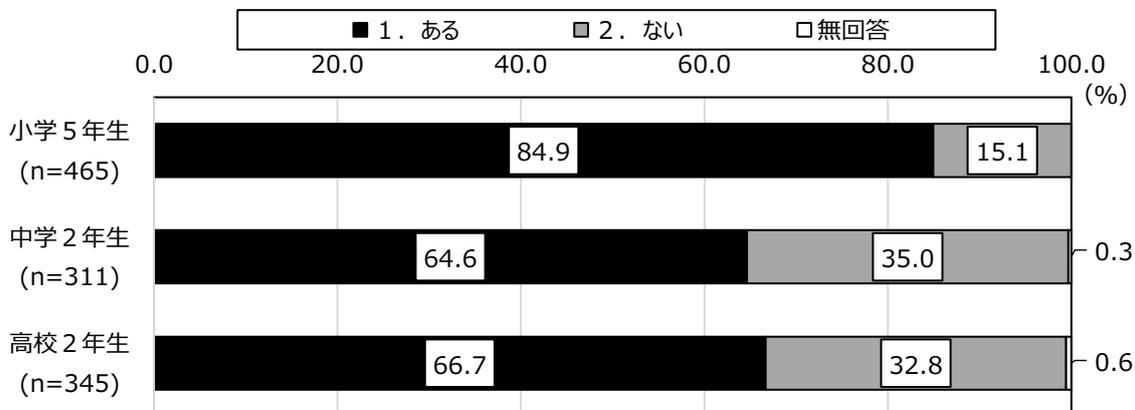


※平成25年以前の調査では「年1～2回利用している」の選択肢なし

⑦ 将来について

将来の夢

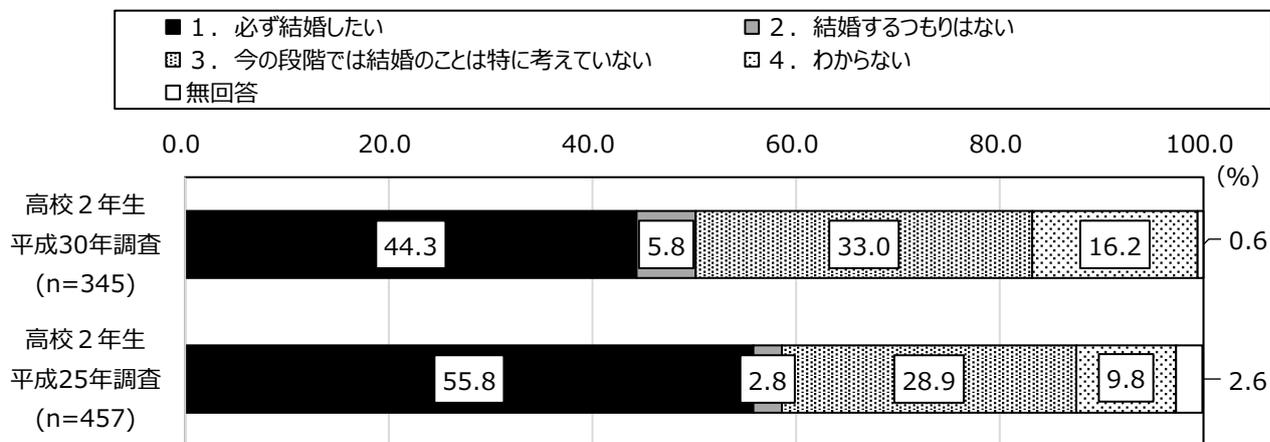
将来の夢が「ある」と回答した割合は、小学 5 年生は 8 割を超えている一方、中学 2 年生や高校 2 年生になると大きく低下しています。



将来の結婚観

将来の結婚について、「必ず結婚したい（選択肢 1）」の回答割合は、44.3%となっています。また、「結婚するつもりはない（選択肢 2）」の回答割合が 5.8%となっています。

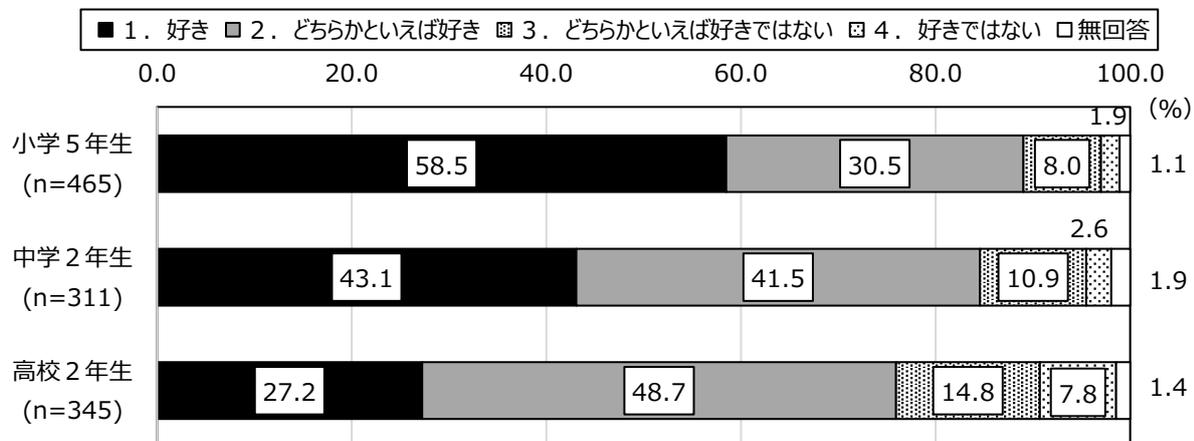
平成 25 年調査と比較すると、「必ず結婚したい（選択肢 1）」の回答割合は低くなっています。



⑧ 松戸市について

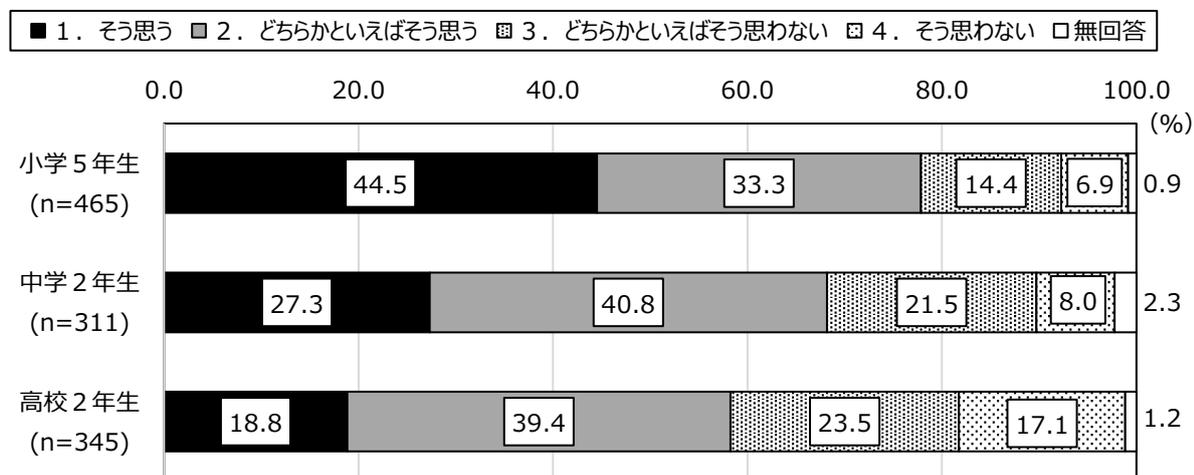
松戸市のことが好きか

松戸市について、子どもの年齢があがるにつれ、好意的な回答をした割合（「好き」と「どちらかといえば好き」の合計）は減少しています。



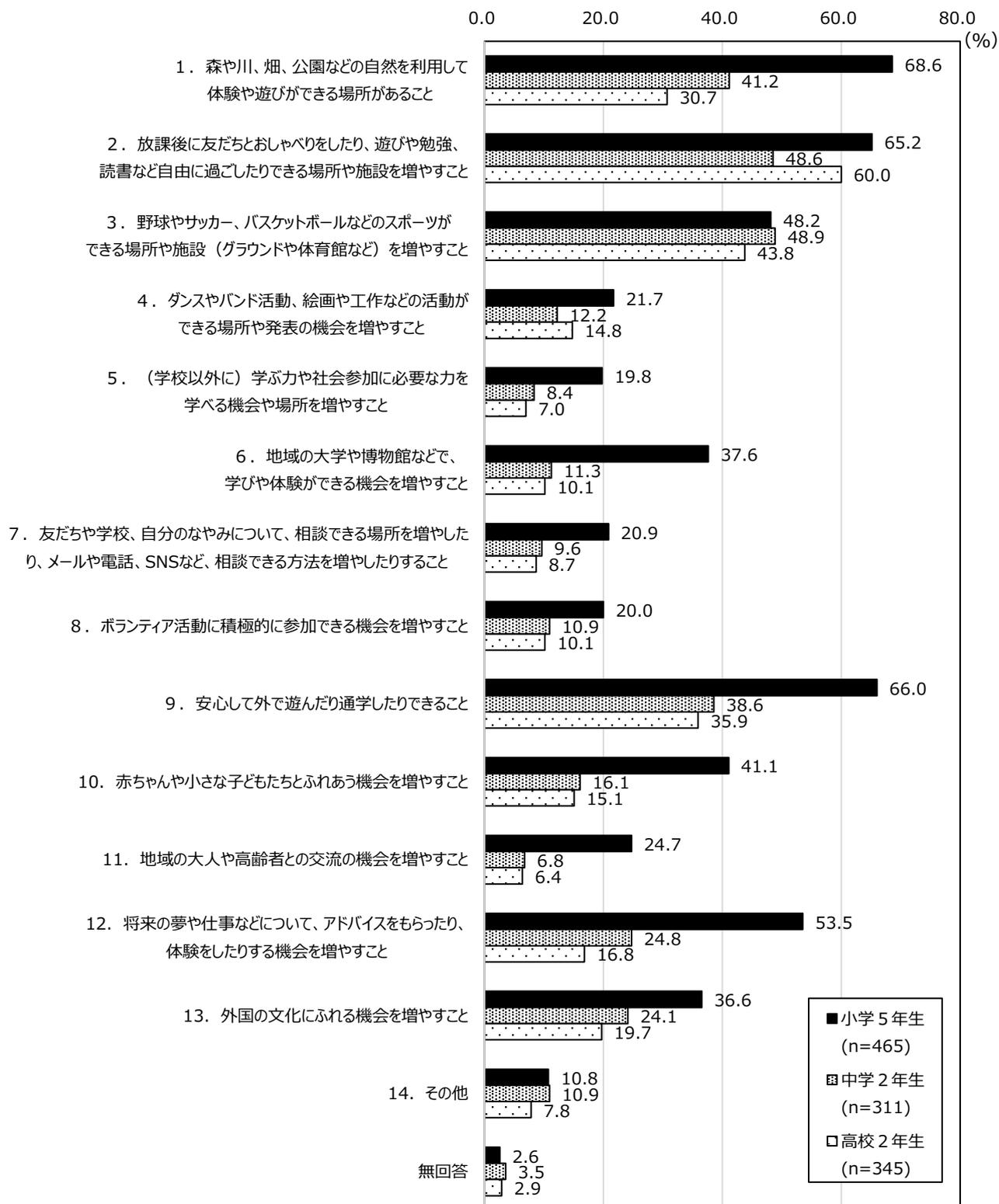
松戸市に住み続けたいか

子どもの年齢があがるにつれ、松戸市にこれからも住み続けたいと回答した割合（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は減少しています。



⑨ 松戸市に望む支援内容

子どもの年齢があがるにつれて、全体的に要望する割合の減少がみられますが、「放課後に友だちとおしゃべりをしたり、遊びや勉強、読書など自由に過ごしたりできる場所や施設を増やすこと（選択肢2）」を回答した高校2年生の割合が高くなっています。

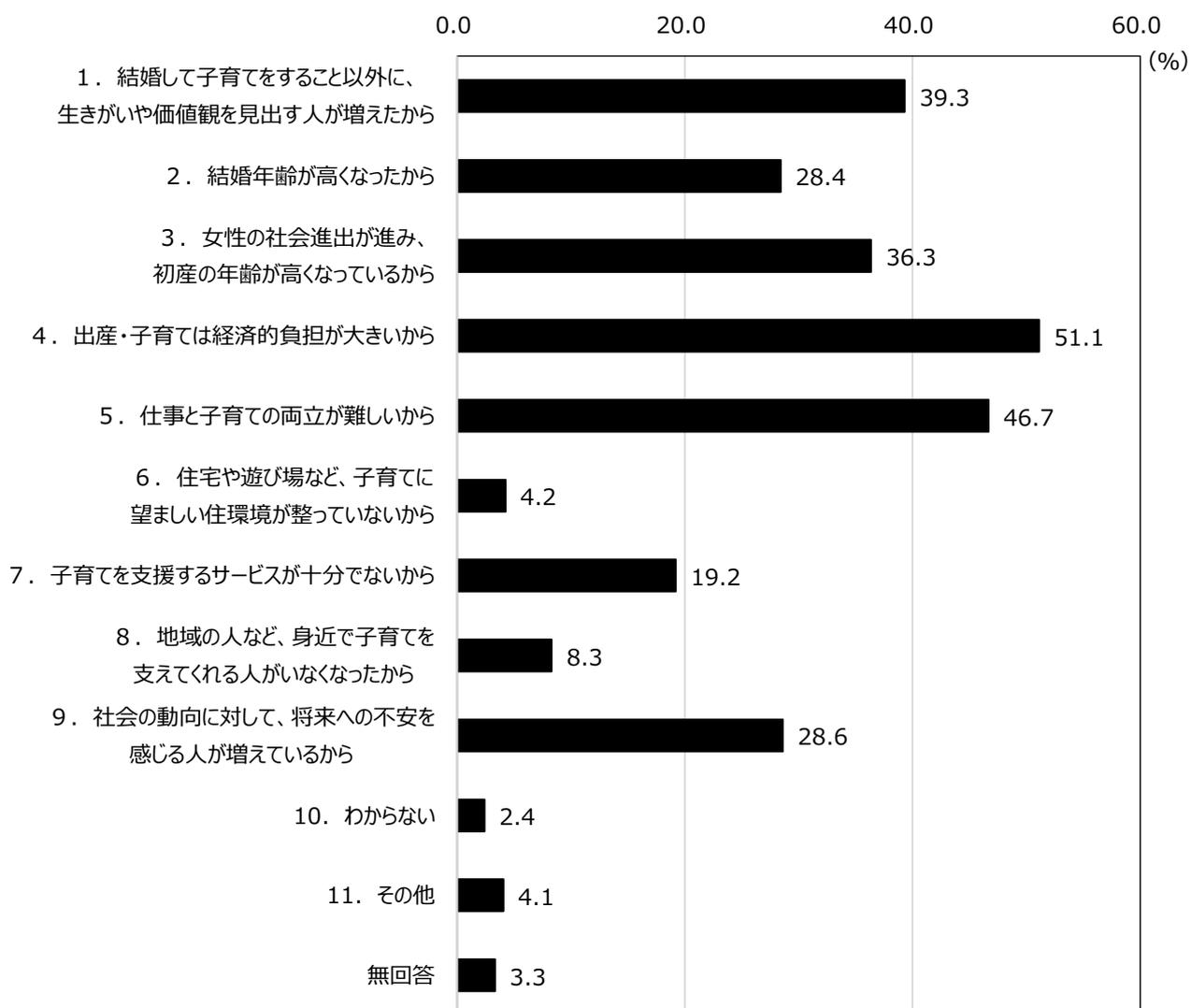


IV. 一般市民 調査結果

① 少子化の理由について

出生数が低い理由として、「出産・子育ては経済的負担が大きいから（選択肢4）」や「仕事と子育ての両立が難しいから（選択肢5）」の回答割合が、高くなっています。

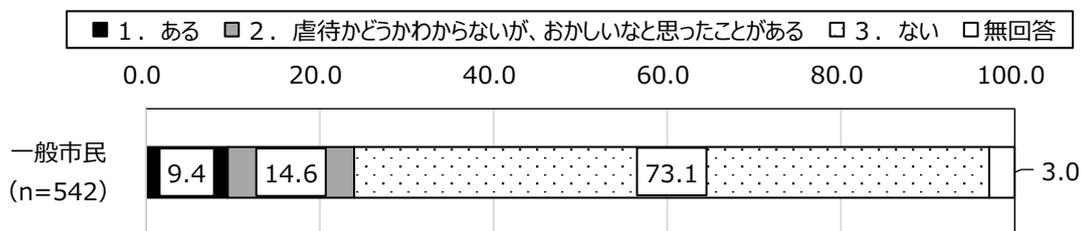
一般市民（n = 542）



② 虐待について

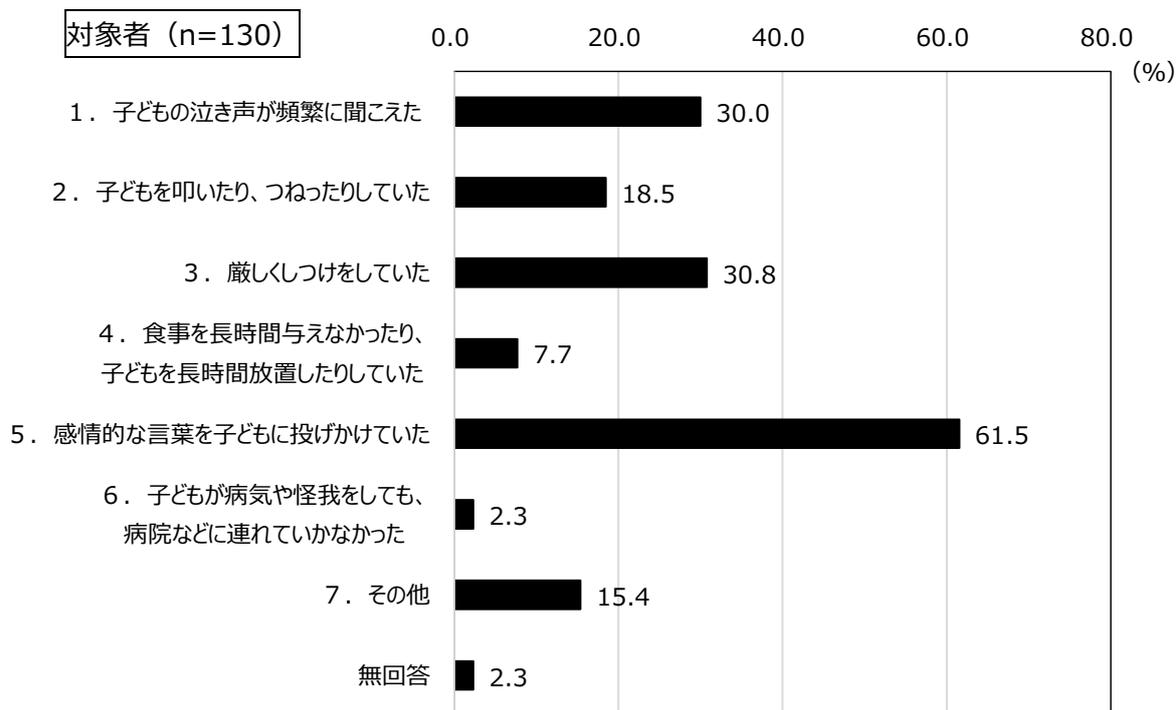
身近なところで虐待かもしれないと感じた経験

身近なところで虐待かもしれないと思ったことが、「ある（選択肢 1）」もしくは「虐待かどうかはわからないがおかしいと思ったことがある（選択肢 2）」の回答割合の合計は、24.0%となっています。



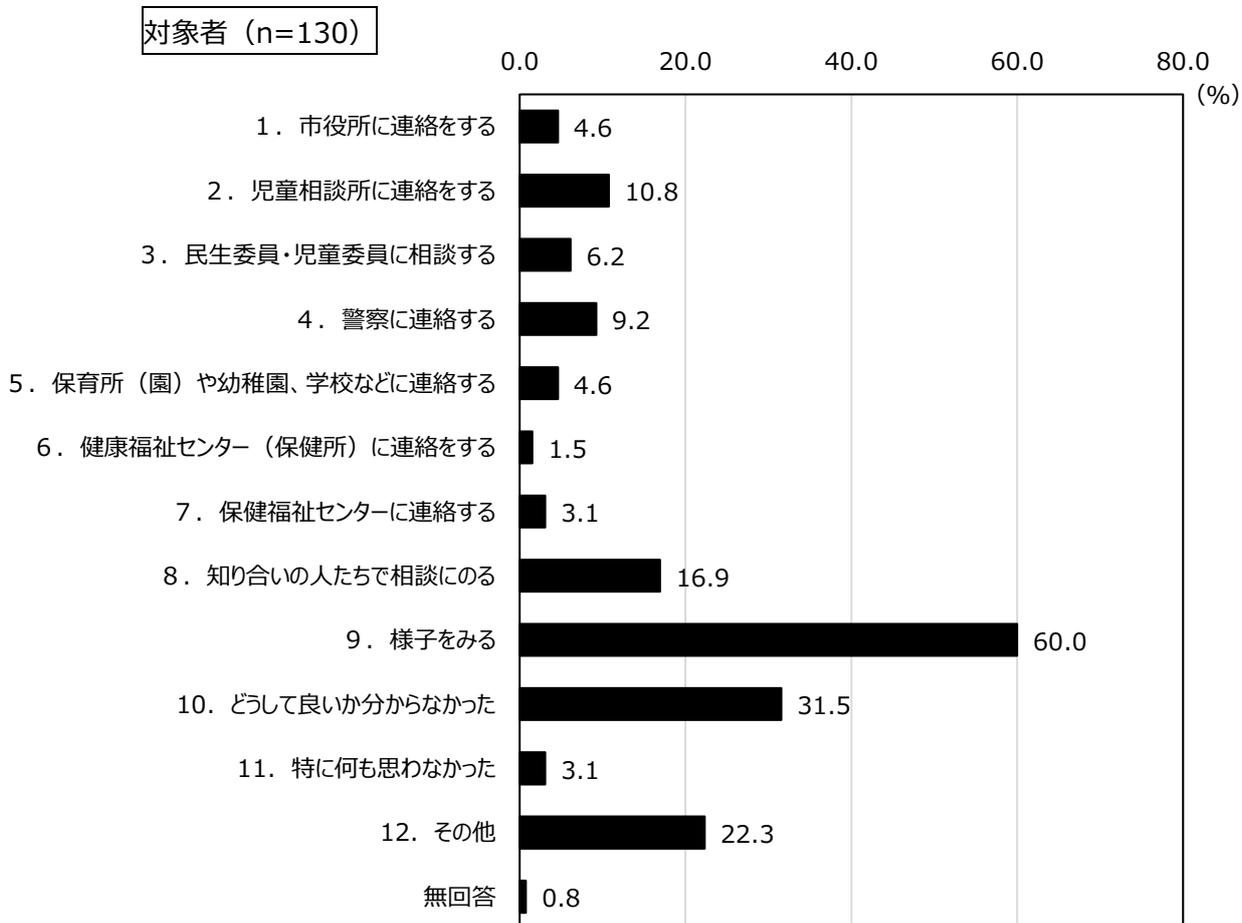
その時の状況

虐待かもしれないと感じた状況について、「感情的な言葉を子どもに投げかけていた（選択肢 5）」の回答割合が最も高くなっています。また、「食事を長時間与えなかったり子どもを長時間放置したりしていた（選択肢 4）」や「子どもが病気や怪我をしても病院などにつれていかなかった（選択肢 6）」についても回答されています。



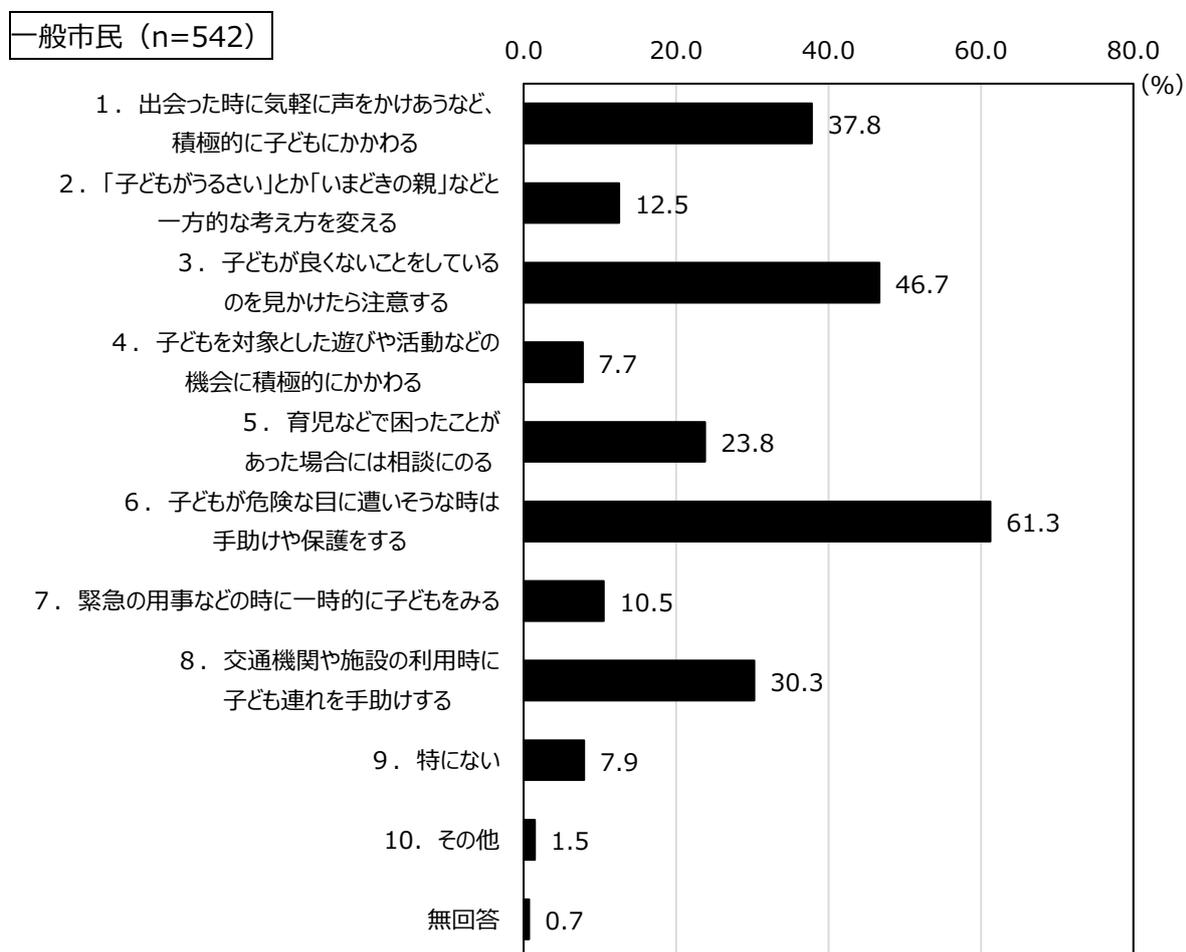
その時の対応方法

虐待かもしれないと感じた際の対応として、「様子を見る（選択肢9）」の回答割合が最も高くなっています。次いで、「どうして良いか分からなかった（選択肢10）」の回答割合が高くなっています。



③ 地域の親子のためにできること

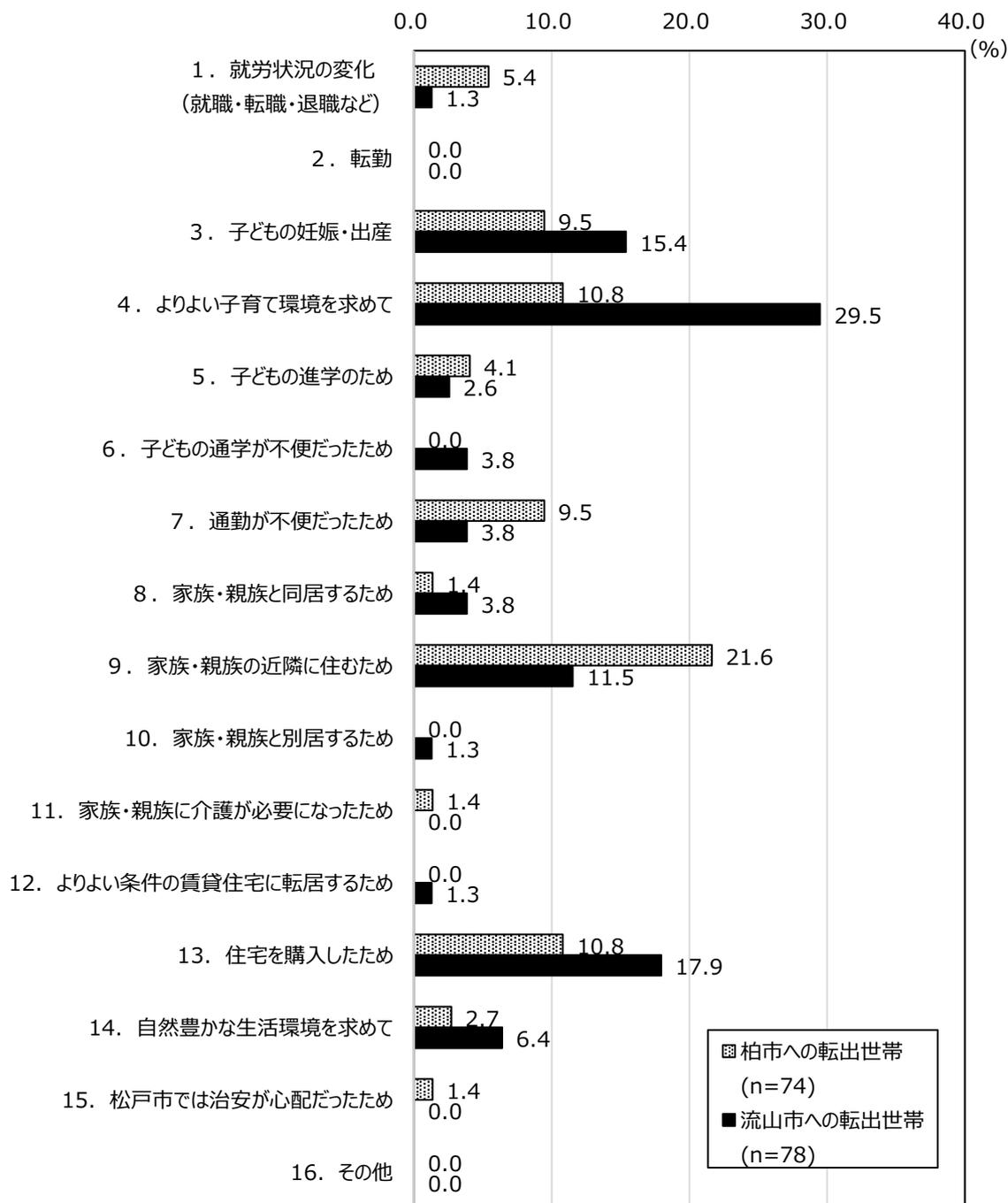
地域の親子のためにできることとして、「子どもが危険な目に遭いそうな時の手助けや保護（選択肢 6）」の回答割合が、最も高くなっています。



V. 松戸市転出世帯 調査結果

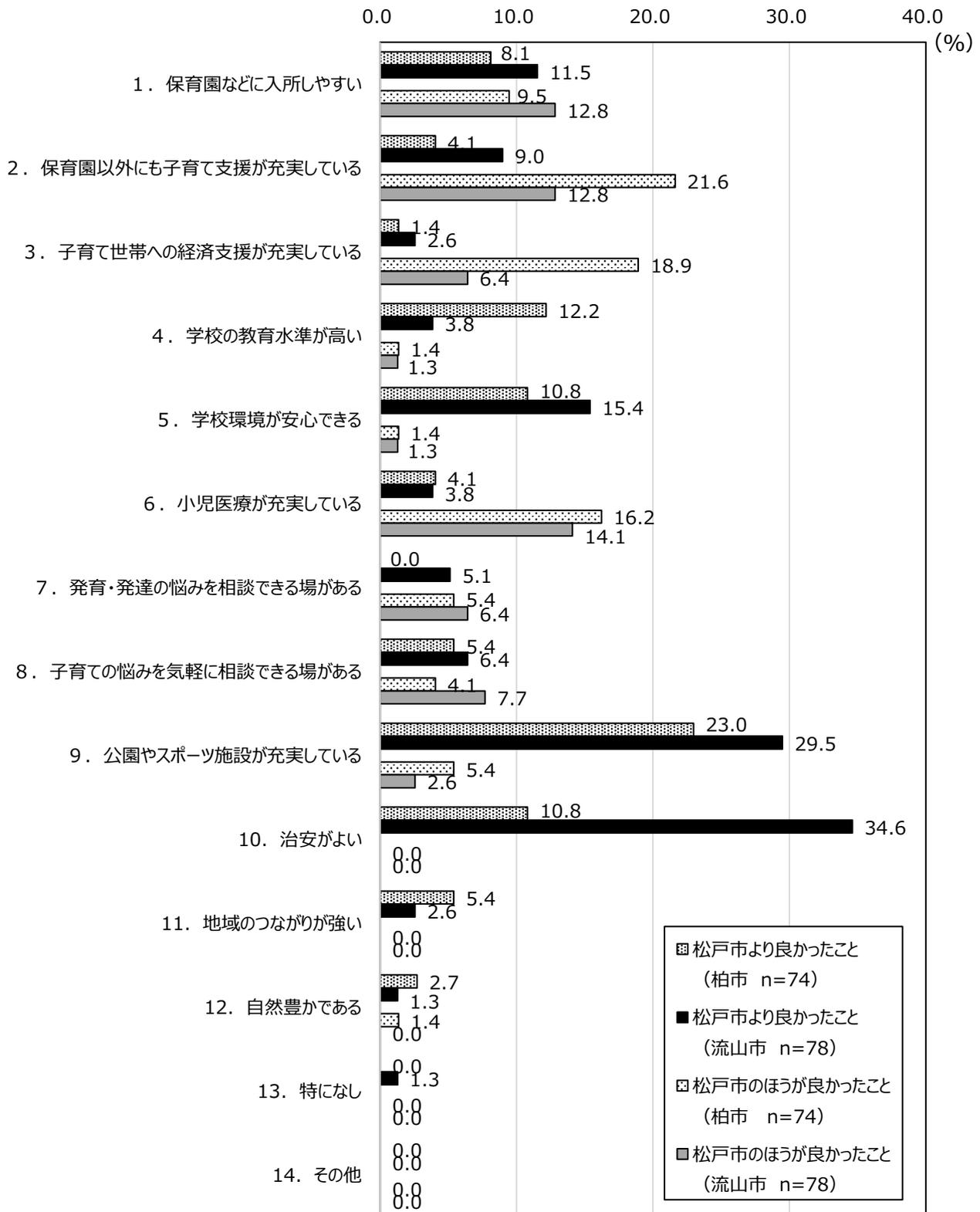
① 松戸市転出のきっかけ

松戸市からの転出理由として、柏市への転出世帯は、「家族・親族の近隣に住むため（選択肢 9）」と回答した割合が最も高かったのに対し、流山市への転出世帯は、「よりよい子育て環境を求めて（選択肢 4）」と回答した割合が最も高くなっています。



② 転出先と松戸市との比較

転出先の方が良かったこととしては、「治安（選択肢 10）」や「公園やスポーツ施設（選択肢 9）」の回答割合が高くなっています。一方、松戸市の方が良かったこととしては、「子育て支援（選択肢 2）」、「経済支援（選択肢 3）」、「小児医療（選択肢 6）」の回答割合が高くなっています。



松戸市 子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書（概要版）

発行年月：平成31年3月

編集・発行：松戸市 子ども部 子ども政策課

〒271-8588 千葉県松戸市根本 387 番地の5

TEL：047-704-4007 FAX：047-365-1009